

宮古市埋蔵文化財調査報告書49

け ばら いち
花 原 市 遺 跡

——平成8年度発掘調査報告書——

1997.6

岩手県宮古市教育委員会

宮古市埋蔵文化財調査報告書49
A Report on the Archaeological Research in Miyako City, No.49

花 原 市 遺 跡

——平成8年度発掘調査報告書——

1 9 9 7 . 6

岩手県宮古市教育委員会

The Miyako Bord of Education
Miyako, Iwate, Japan

序 文

宮古市内には、縄文時代から中近世に至るまでの数多くの遺跡があります。現在のところ、443ヶ所ほどの遺跡の存在が確認されています。これらの遺跡は、先人たちによって守り受け継がれてきたもので、私たちの次の世代、そしてまたその次の世代へと連綿として継承していかなければなりません。また、それが私たちに課せられた責務であると思っています。

幸いにも宮古市においては、平成8年7月に崎山貝塚が国の史跡として指定され保存が決まり、今後の保存・活用方法について知恵をしばっているところでもあります。しかしながら、今に生きている私たちの生活基盤の整備との関係で、崎山貝塚のように保存される遺跡は少ないのが現状です。本遺跡のように止むを得ず破壊が避けられない場合に限って、教育委員会が主体となり発掘調査を実施し記録として残すこととなります。

本書は、宅地造成に先立ち実施した花原市遺跡の平成8年度の発掘調査の成果を取りまとめたものです。

調査の結果、14基のフラスコ形土坑跡を含む縄文時代の土坑跡や当市では発見例の少ない弥生時代の竪穴住居跡などが調査されました。このような地道な調査の積み重ねがあってこそ、私たちの先人たちの歴史・文化が解明されていくものと思っております。

最後になりましたが、発掘調査及び本書の作成に際しましては多くの人たちの多大なるご協力・ご支援を賜りました。深く感謝申し上げますとともに、本書が多くの方々に活用され遺跡の保護並びに郷土の歴史・文化の理解及び学術研究の一助となれば幸いです。

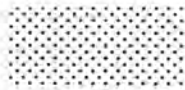
平成9年6月

宮古市教育委員会

教育長 中 屋 定 基

例 言

1. 本書は岩手県宮古市大字花原市第1地割字畑ノ下地内に所在する花原市遺跡の平成8年度に実施した緊急発掘調査の報告書である。
2. 花原市遺跡内では平成4年度に別地点で緊急発掘調査を実施しており、これを第1次調査とし、今回の調査を第2次調査とする。
3. 発掘調査の主体は宮古市教育委員会(教育長 佐藤勇逸)で、発掘調査は梶原(旧姓、三浦)、整理作業・本書の執筆は鎌田が担当し、竹下、高橋、阿部、工藤がこれを補佐した。
4. 発掘調査の座標は付近に公共座標がないため任意に設定したもので、調査区のほぼ中心部をNSEW0とし東西南北方向に1m移動する毎にN1、S1、E1、W1・・・と標記した。
5. 高さは標高基準点より移動し標高値をそのまま使用した。
6. 土層の観察には「新版 標準土色帖」(1967 小山正忠・竹原秀雄編)を参考とした。また、本文中に記載した土層観察表のうち粘性については強、中、弱、無の4段階で表記した。
7. 遺構・遺物の表現は次のとおりとした。



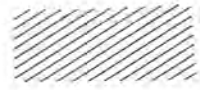
焼土



地



繊維を含む土器片の断面



石の断面

8. 発掘調査及び本書の作成に際しては、次の方々からご教授・ご指導をいただいた。記して感謝申し上げます。(敬称略、順不同)

高橋 信雄	岩手県教育委員会文化課	小田野哲憲	岩手県埋蔵文化財センター
佐々木 勝	同	佐々木清文	同
佐藤 嘉広	同	岸 昌一	宮古市市史編さん室
佐々木 務	同	斎藤 英樹	宮古市文化財保護審議会委員
		佐々木 健	新里村教育委員会文化財専門委員

9. 本文中における引用文献は次の通り略記した。(いずれも宮古市教育委員会刊行)

1986 『宮古市遺跡分布図 昭和63年度版』 武田 将男 → 『分布図 86』
1995 『崎山貝塚範囲確認調査報告書』 高橋憲太郎 → 『崎山貝塚 95』
1995 『花原市遺跡 平成4年度発掘調査報告書』 鎌田 祐二 → 『花原市 95』
1995 『笹沢遺跡・加村遺跡・仲組遺跡・堺ノ神遺跡 発掘調査報告書』
竹下 将男他 → 『笹沢他 95』
1989 『高根遺跡 平成元年発掘調査報告書』 鎌田 祐二 → 『高根 89』
1992 『高根遺跡 第2次発掘調査報告書』 鎌田 祐二 → 『高根 92』
1989 『千鷲遺跡 昭和62年発掘調査報告書』 鎌田 祐二 → 『千鷲 89』
1988~1992 『崎山遺跡群Ⅱ~Ⅴ 昭和62年~平成2年度発掘調査概報』
高橋憲太郎 → 『崎山遺跡群Ⅱ~Ⅴ』
1996 『大付遺跡 平成5年度、平成6年度発掘調査報告書』 高橋憲太郎 → 『大付 96』

目 次

序 文	
例 言	
目 次	
I 調査経過	
1 調査に至る経過	1
2 調査要旨	1
3 調査体制	2
II 遺跡の立地と環境	
1 遺跡の位置と立地	5
2 遺跡周辺の地形・地質	5
3 周辺の遺跡	6
III 調査内容	
1 遺跡の基本層序	11
2 検出した遺構・遺物	
A 縄文時代の遺構・遺物	14
B 弥生時代の遺構・遺物	43
C 所属時期不明の遺構	45
D 遺構外出土の遺物	45
IV 調査のまとめ	53
報告書抄録	54
写真図版	

挿 図 目 次

第1図	位置図	3
第2図	花原市遺跡周辺地形図	4
第3図	地形分類図	7
第4図	地質分類図	8
第5図	花原市遺跡と周辺の遺跡	9
第6図	遺構配置全体図	12
第7図	基本層序図（調査区西壁土層断面図）	13
第8図	第1号土坑跡～第4号土坑跡	15
第9図	第5号土坑跡・第6号土坑跡・第19号土坑跡	18
第10図	第7号土坑跡・第11号土坑跡・第12号土坑跡	20
第11図	第10号土坑跡・第8号土坑跡・第13号土坑跡・第14号土坑跡	23
第12図	第15号土坑跡～第17号土坑跡	25
第13図	第21号土坑跡～第24号土坑跡	29
第14図	第26号土坑跡～第29号土坑跡	31
第15図	第30号土坑跡～第34号土坑跡	33
第16図	第35号土坑跡～第38号土坑跡	35
第17図	第39号土坑跡・第41号土坑跡～第43号土坑跡	39
第18図	第44号土坑跡～第46号土坑跡	41
第19図	第47号土坑跡・第48号土坑跡	42
第20図	第1号竪穴住居跡	44
第21図	焼土遺構No.1・焼土遺構No.2	46
第22図	焼土遺構No.3・焼土遺構No.4	47
第23図	焼土遺構No.5・焼土遺構No.6	48
第24図	出土土器①	49
第25図	出土土器②	50
第26図	出土石器①	51
第27図	出土石器②	52

写真図版目次

- 第1写真図版 遺跡遠景（南側から）、調査区の状況（北から）
- 第2写真図版 第3号土坑跡（完掘）、同（断面）
- 第3写真図版 第5号土坑跡（完掘）、同（断面）
- 第4写真図版 第10号土坑跡（完掘）、同（断面）
- 第5写真図版 第11号土坑跡（完掘）、同（断面）
- 第6写真図版 第12号土坑跡（完掘）、同（断面）
- 第7写真図版 第13号土坑跡（完掘）、同（断面）
- 第8写真図版 第15号土坑跡（完掘）、同（断面）
- 第9写真図版 第17号土坑跡（完掘）、同（断面）
- 第10写真図版 第17号土坑跡（土器出土状況）、第21号土坑跡（完掘）
- 第11写真図版 第28号土坑跡（完掘）、第39号土坑跡（完掘）
- 第12写真図版 第39号土坑跡（断面）、第43号土坑跡（完掘）
- 第13写真図版 第43号土坑跡（断面）、第47号・第48号土坑跡（完掘）
- 第14写真図版 第47号土坑跡（断面）、第48号土坑跡（断面）
- 第15写真図版 第1号竪穴住居跡（完掘）、第1号竪穴住居跡（断面）
- 第16写真図版 第1号竪穴住居跡（断面）、第1号竪穴住居跡（炉跡）
- 第17写真図版 出土土器
- 第18写真図版 出土土器
- 第19写真図版 出土土器
- 第20写真図版 出土石器

I 調査経過

1. 調査に至る経過

花原市遺跡は、宮古市大字花原市第1地割字畑ノ下及び第2地割字草鞍前地内に所在する周知の遺跡で、宮古市遺跡コードLG32-1082として登録されている(『分布図 86』)。

周知の遺跡

調査の端緒は、この周知の遺跡内の一部に民間業者が宅地造成・販売の計画を平成4年(1992)に策定され、周知の遺跡内であることから当教育委員会とその取扱について数回の事前協議を重ねた。その結果、取りあえず遺構・遺物の有無とその内容把握を目的とした試掘調査を実施することで合意し、事業主である民間業者と協定を締結した上で同年12月7日～12月11日まで試掘調査を実施した。

事前協議

試掘調査は東西方向に試掘トレンチを設定し行った。その結果、竪穴住居跡や貯蔵穴と想定される遺構と若干の縄文土器片等の存在が標高の高い地点(調査対象区域のほぼ半分)で確認され、本調査が必要と判明した。その後、事業主の主体者変更や諸般の事情により協議は一時途絶えたが、平成8年(1996)3月に改めて協議を再開し記録保存を前提とした緊急調査を実施することで合意し、平成8年4月1日付けをもって本調査についての協定を締結した。調査は、平成8年4月8日から開始した。更に、本調査終了後に整理作業・報告書作成に係る協議を締結し、本書の刊行をもって一連の調査の完了とした。

試掘調査

記録保存

2. 調査要旨

調査地点 岩手県宮古市大字花原市第1地割字畑ノ下34-1, 35-5, 36-3, 36-6

遺跡名 花原市遺跡(けばらいちいせき)

調査原因 民間の宅地造成に先立つもの

調査面積 2,585㎡

調査主体 宮古市教育委員会(教育長 佐藤勇逸、平成9年4月3日から中屋定基)

調査期間 (試掘調査)平成4年12月7日～同年12月11日

(本調査)平成8年4月8日～同年6月5日

(整理作業)平成8年12月2日～平成9年3月31日

(報告書刊行)平成9年度

検出遺構 縄文時代の土坑跡42基、その内プラスチック形土坑跡14基。弥生時代の竪穴住居跡1棟。所属時期不明の焼土遺構6基。

検出遺物 全体量としては少量だが、土坑跡や遺物包含層等から縄文時代前期・中期に伴う土器・石器等が出土している。また、弥生時代の竪穴住居跡からは弥生時代後半の土器等が出土している。更に、焼土遺構の土壌サンプルの水洗選別からは微量の骨片や炭化物片が検出しているが種同定可能なものはなかった。

3. 調査体制

発掘調査及び整理作業の体制は次のとおりである。

委 託 者 藤田憲男（平成8年12月5日からは藤田憲吾）

調査協力 ㈱東建ハウス（代表取締役 渡邊 聡）

調査主体 宮古市教育委員会（教育長 佐藤勇逸、平成9年4月3日から中屋定基）

調査総括 社会教育課社会教育課長 浦野 光廣

事務担当 同 社会教育係長 田鎖 春雄

同 社会教育主事 野崎 政博

同 庶務主査兼社会教育主事 坂下 昇（平成8年度他課異動）

調 査 員 同 社会教育係主任 竹下 将男

同 社会教育係主任 高橋 憲太郎

同 社会教育係主任 鎌田 祐二（整理作業・報告書刊行担当）

同 社会教育係主事 橋本 晃一（平成8年度他課異動）

同 社会教育係主事 梶原（旧姓三浦）千秋（調査主担当、平成8年9月退職）

同 社会教育係主事 加納 由美（平成9年度採用）

同 埋蔵文化財調査員 阿部 豊（非常勤）

同 埋蔵文化財調査員 工藤 剛司（非常勤）

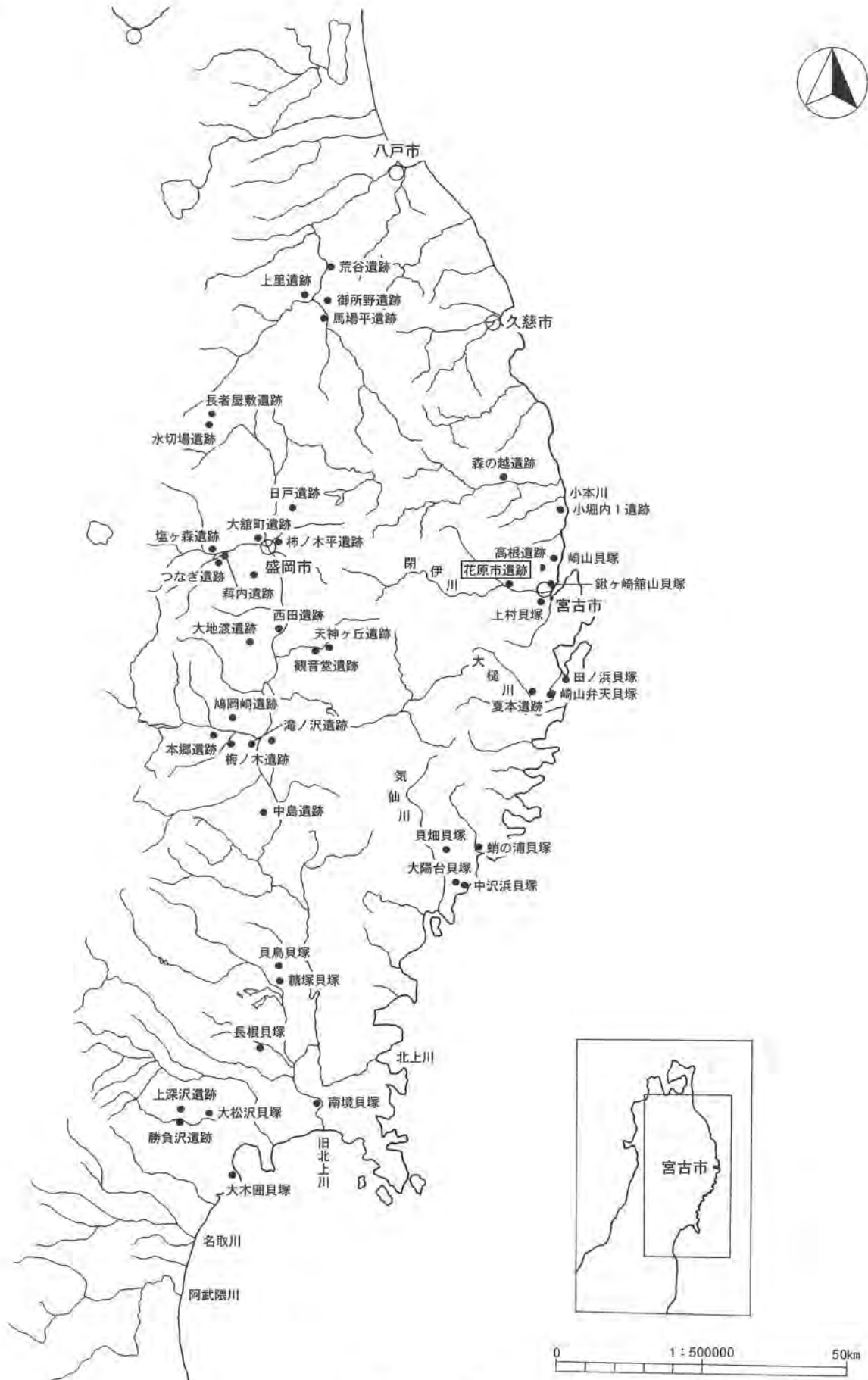
発掘調査・整理作業に際しては次の方々から多大なるご協力をいただいた。（敬称略、順不同）

《地権者等》藤田憲男、藤田憲吾、藤田キミ、上野吉郎

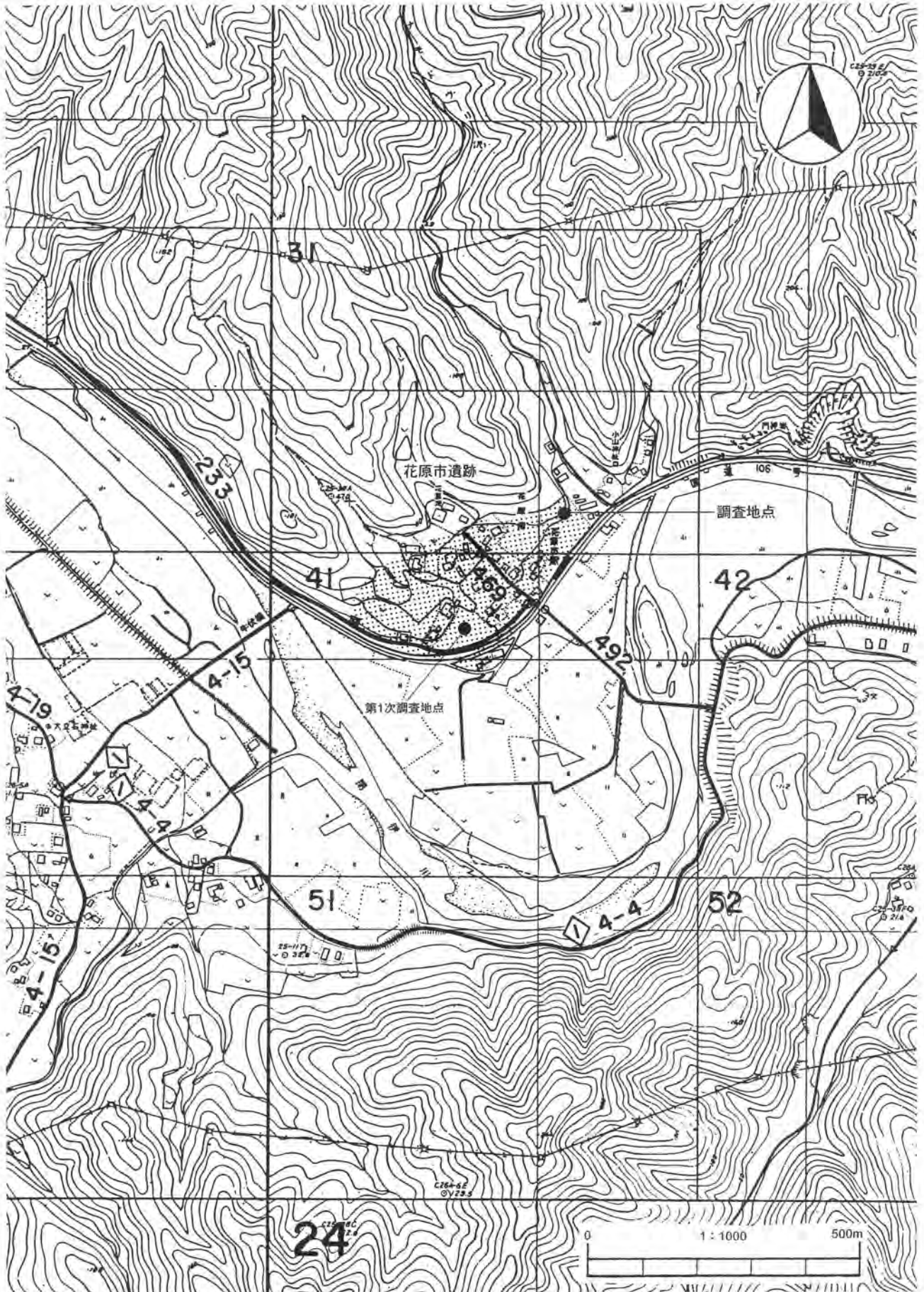
《試掘調査・発掘調査・整理作業》石田 充、藤谷晶子、菅原テルミ、永田美弥子、

久保田チエ、木村 博、館崎禮子、佐々木健、吉田 昭、大越 隆、前川友宏、

佐々木ヨシ子、崎尾由美子、工藤イネ



第1図 位置図



第2図 花原市遺跡周辺の地形図

II 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置と立地 (第1図、2図)

宮古市は岩手県沿岸部のほぼ中央に位置し、北緯39°29'49"~39°43'23"、東経141°45'20"~142°04'44"までの約339km²を市域とする。市内東部の重茂半島^{しんぼう}鮎ヶ崎は本州最東端に位置する。東は太平洋、西は岩泉町、新里村、北は田老町、南は山田町と境を接している。市内には北上山地の兜明神岳(川井村)に源を発し、そのまま東流し新里村を経て宮古市内を南北に2分するように宮古湾に注ぎ込む閉伊川と、山田町を経て宮古湾奥に注ぎ込む津軽石川の2大河川があり、その河口部を中心にひろがる沖積地とその支流域に形成された段丘面に市街地がつくられている。

本州最東端

閉伊川

津軽石川

宮古市内の地形は大きく分けて西部の北上山地から続く中・小起伏の山地帯と東部の重茂半島域に2分され、中・小起伏の山地帯の縁辺部には丘陵帯が形成される。

西部の山地帯は北上山地の東端部にあたり、徐々にその高度を下げ標高200m付近で小起伏となり、この縁辺部には標高100~50m前後の丘陵帯が形成されている。これらの丘陵帯はいずれも河川や沢などによる開析の度合いが高く平面的には樹枝状の尾根状の形態を呈している。

また、河川沿いを中心に形成されている段丘面も小規模で面的な連続性にも欠け現河道側に傾斜している場合が多い。東部の重茂半島域も同様に標高731mの十二神山を頂点とする中・小起伏の山地帯が海岸線まで迫り、その縁辺部にわずかな丘陵帯が形成されている。

市内の遺跡の多くはこのような小起伏の山地帯、段丘面、緩斜面状の山麓部に立地している。花原市遺跡も背後の小起伏山地帯から続く緩斜面状の山麓部に立地している。位置的には、宮古市街地からおよそ10kmほど真西に離れたほぼ新里村との市村境に近いところにある。遺跡の南側には閉伊川が流れ、それに沿うように国道106号、JR山田線が遺跡内の南端をはしる。

今回の調査地点は遺跡内の東端部にあたり、第1次調査地点から北東方向へ約250m、JR山田線花原市駅から北東約100mの地点である。遺跡全体がほぼ南向きで日当たりが良く市中心部よりは幾分温暖なところである。

2. 遺跡周辺の地形・地質(第3図、4図)

宮古市を含む岩手県沿岸部は、その海岸線を当市付近を境として景観を異にしている。北側は断崖絶壁の直線的な海岸線で砂浜等の形成が貧弱である。一方、南側は複雑に入り組んだリアス式海岸となっており、比較的入江部分には砂浜等が形成されている。このようなことから当市付近を境として地形的にも地質的にも北部と南部の地理学的境界に位置しているといわれている。地形的には前項に記したが、地質的には西部の山地帯は中生界ジュラ系の北部北上山地帯(岩泉帯)が基盤をなし、この中にはそれ以前の古生界ペルム系からの岩相が混在し砂岩・頁岩・火山岩類・チャート等の堆積岩が見られる。市北部の沿岸部には中生界下部白亜系下部の安山岩質の堆積岩からなる^{はらちやまそう}原地山層が広がっている。また、東部の重茂半島の海岸部にもそれとほぼ同時期に堆積したと考えられる重茂噴出岩類があり、やはり石英安山岩類等がみられる。そしてその間の市中心部から東部の重茂半島中央部にかけて南北に広く分布しているのが、中生界下部白亜系下部に侵入した花崗岩類(宮古花崗岩体、田老花崗岩体)である。更に、この上には白亜紀前期の化石を産出することで知られている中生界下部白亜系上部の宮古層群

直線の海岸線

リアス式海岸

宮古花崗岩体

(砂岩・礫岩・泥岩類)が堆積する。よって、宮古花崗岩体は原地山層と宮古層群の間に進入したもので層位的に極めて限定された時期に進入したものである。また、重茂半島中央部にかけての花崗岩類は宮古花崗岩体進入後のものである。以上が、宮古市の基盤を構成する地質である。

立地 さて、花原市遺跡は背後に広がる中起伏山地帯(峠ノ神山山地帯)から続く小起伏山地帯に立地しているが、地形的には標高50~10mほどの緩斜面部に立地しており南側の閉伊川に向かってなだらかに傾斜し大きな尾根状となっている。しかし、この緩斜面部も標高20m付近で段差を有しており2つの段丘から成り立っている可能性が高いが、その部分がちょうど国道106号、JR山田線によって人工的な改変を受けており不明瞭になっている。更に、細かく見ていくと第1次調査地点(小字名で草鞍前)と今回の第2次調査地点(小字名で畑ノ下)との間には小さな沢が入っており、東西に分断したような微地形となっている。

第1次調査 花原市遺跡からは、縄文時代中期と晩期の土器片が表採されており(『分布図 86』)、また第1次調査では前期前半から中期前半の遺構・遺物が確認されており、これらの段差や微地形が各時期の立地に関連しているのかは未調査部分が多く現段階では不明である。

地質的には、西部の山地帯中生界ジュラ系の北部北上山地帯(岩泉帯)の上に立地し周辺部には砂岩・頁岩・火山岩類・チャート・石灰岩等の堆積岩がみられる。第1次調査で出土した石器類の石材をみても周辺部の岩相を反映している。また、当遺跡の東側にある小沢を山地帯へ向かい沢ぞいに登っていけば石灰岩の小洞窟がある。

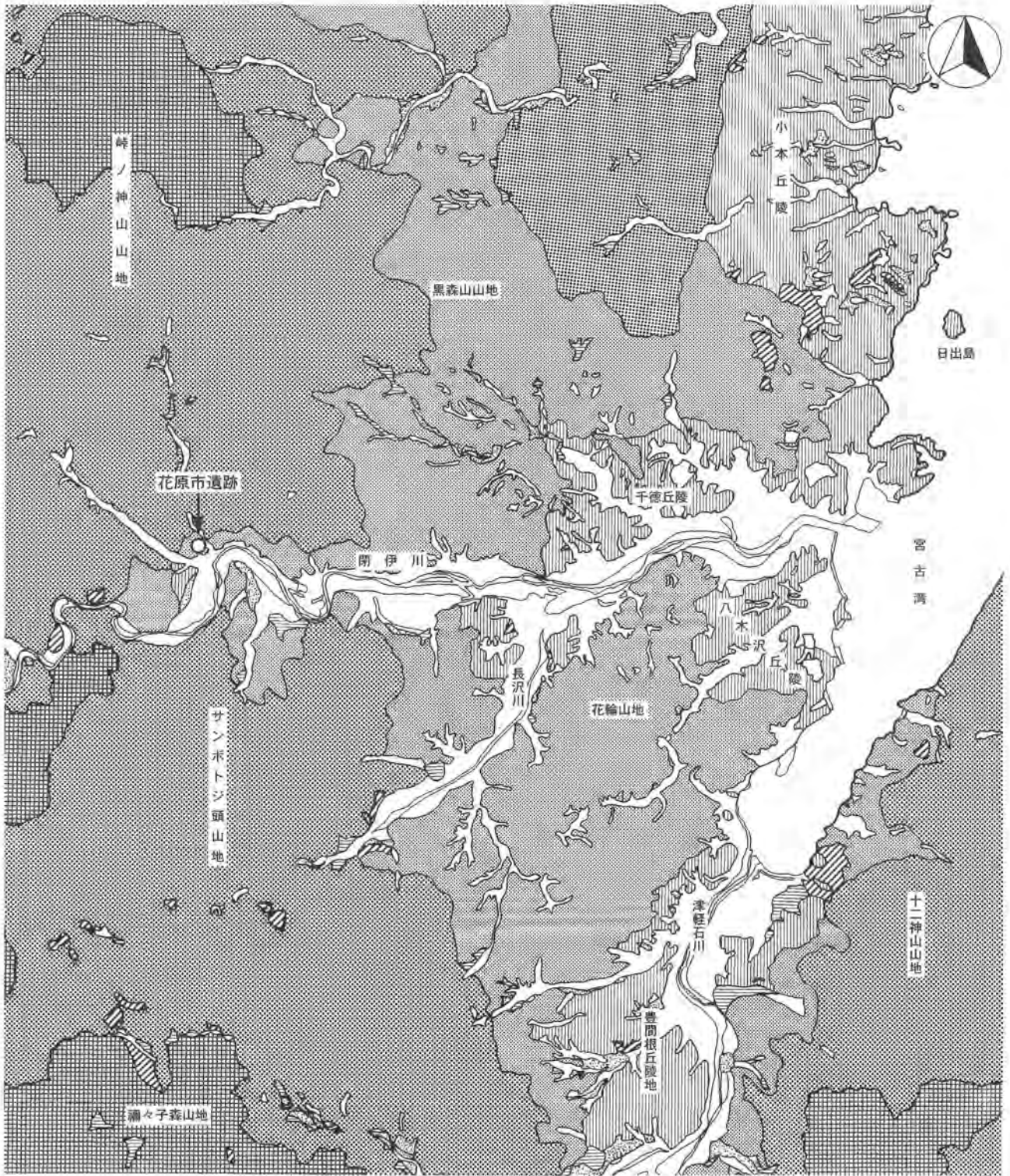
3. 周辺の遺跡(第5図)

花原市遺跡の所在する宮古市最西部には、周囲が山地帯に囲まれており遺跡の立地条件としては適さないためか意外と周知の遺跡は少ない。

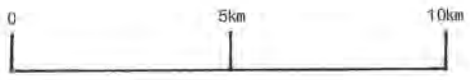
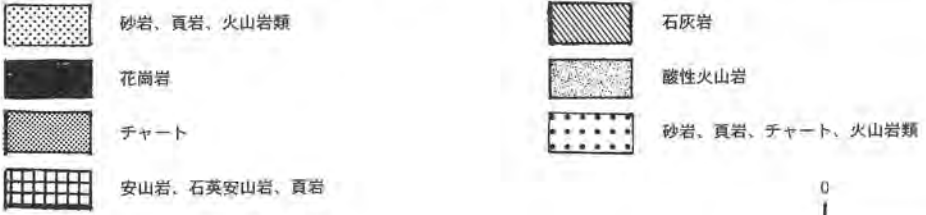
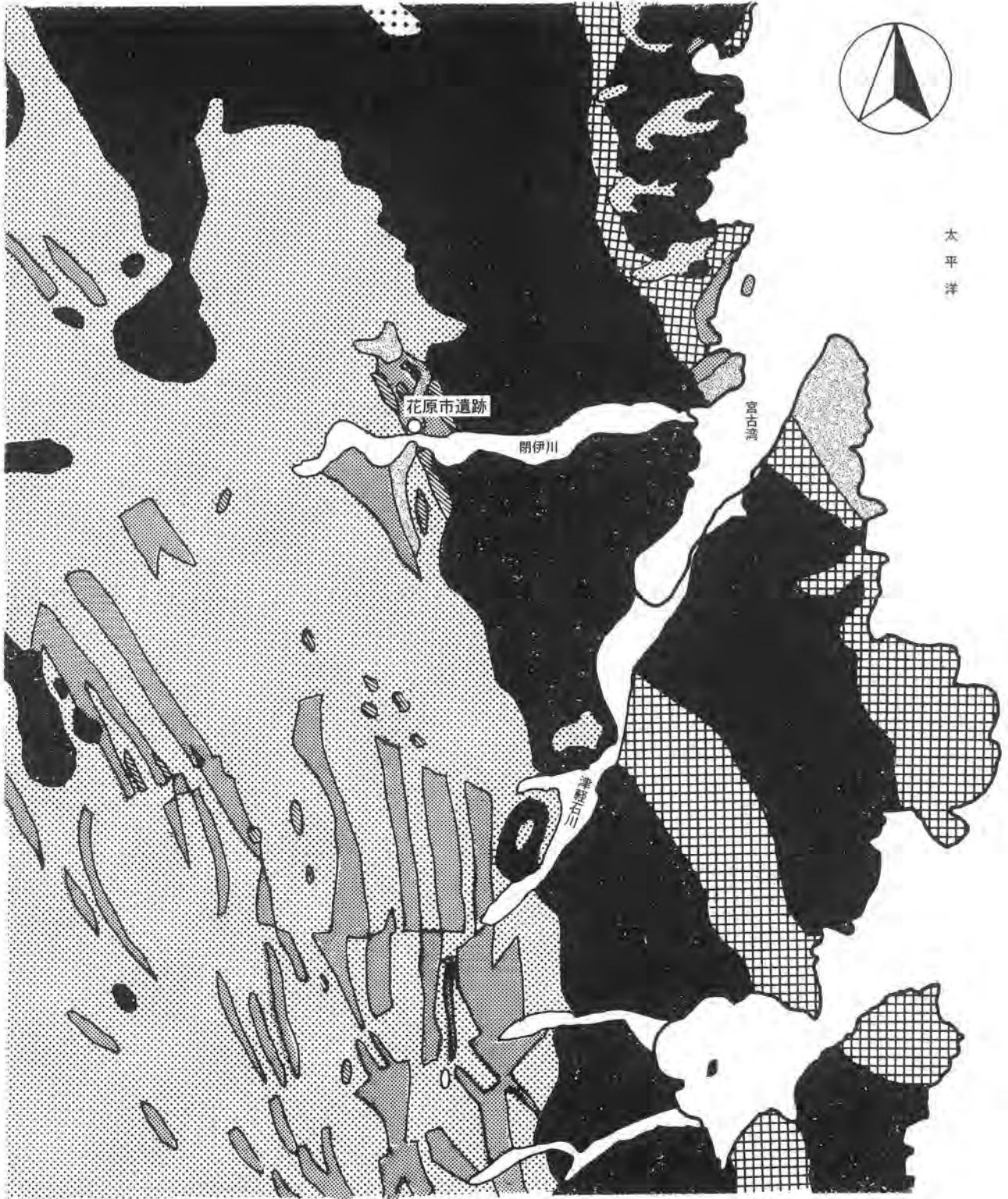
牛伏遺跡 当遺跡の立地する閉伊川北岸と対峙する南岸の扇状地状にひらけた牛伏地区に牛伏遺跡が知られている。遺跡の現状は住宅が密集しているが、『分布図 86』によれば土師器が表採されるとあり古代の遺跡が存在すると考えられる。また、閉伊川及びその支流沿いには鎌倉時代末期から中世にかけて当地方を支配した閉伊氏によって築城された城館跡が点在する。西側から根城館、老木館、田鎖館、根市館、長沢館、花輪館、松山館、千徳城、近内館等々である。更に、当遺跡の範囲内には閉伊氏の菩提寺である華嚴院があり、往時には周囲に僧坊等があり当地方随一の寺院として隆盛していたといわれている。実際、第1次調査では掘立柱建物跡や渡来銭である元の銭や陶磁器片が僅かながら出土しており、何らかの関連性を予測させる遺構・遺物が確認されている(『花原市 95』)。

閉伊氏の築城 また、閉伊川を更に西側に遡り新里村内に入ると花原市遺跡とほぼ立地環境が類似した閉伊川の北岸に比較的規模の大きな墓目A・B遺跡(岩手県遺跡コードLG31-1273)があり、縄文時代の土器・石器が表採され集落跡と想定されている。しかし、その現状は果樹園造成により大部分が壊滅状態で出土したといわれている大量の土器・石器類も散逸してしまっている。墓目館跡(岩手県遺跡コードLG31-1213)はやはり閉伊氏によって築城された城館跡である。主郭・帯郭・空堀跡等が良好に保存されている(新里村教育委員会文化財調査委員 佐々木健氏のご教示による)。

墓目A・B遺跡 また、閉伊川を更に西側に遡り新里村内に入ると花原市遺跡とほぼ立地環境が類似した閉伊川の北岸に比較的規模の大きな墓目A・B遺跡(岩手県遺跡コードLG31-1273)があり、縄文時代の土器・石器が表採され集落跡と想定されている。しかし、その現状は果樹園造成により大部分が壊滅状態で出土したといわれている大量の土器・石器類も散逸してしまっている。墓目館跡(岩手県遺跡コードLG31-1213)はやはり閉伊氏によって築城された城館跡である。主郭・帯郭・空堀跡等が良好に保存されている(新里村教育委員会文化財調査委員 佐々木健氏のご教示による)。



第3図 地形分類図



第4図 地質分類図



第5図 花原市遺跡と周辺の遺跡

- さて、市内で発掘調査された縄文時代の主な遺跡を見ていくと、重茂半島北部の笹沢Ⅰ遺跡で早期後半の表裏縄文の土器が伴う竪穴1棟が調査されており、これが現在のところ市内では1番古い時期の遺構である（『笹沢他 95』）。前期初頭になるとやはり重茂半島南部にある千鷄遺跡で竪穴住居跡30棟余が調査されている（『千鷄 89』）。また、平成8年度に調査された千鷄Ⅳ遺跡では前期前半から中期にかけての集落が調査されている（現在整理中、未報告）。
- 中期になるとほぼ市内全域で発掘調査が実施されている。中でも昭和63年（1986）から国庫補助を導入して範囲確認調査が実施された崎山貝塚が知られている（『崎山貝塚 95』）。当貝塚では人工的に作られた中央広場・環状遺構帯・東西の住居域・貝塚・湿地帯という特異な集落構造が良好な保存状態で残っていることが確認された。特に、中期初頭から後期初頭にかけての集落構造の変遷がたどれる。また、斜面部には前期初頭から後期初頭の遺物包含層も形成されており、平成8年7月（1996）には国の史跡指定を受けた。中期前半の遺跡としては、山口川の段丘沿いに立地する高根遺跡等の調査例がある。高根遺跡では、住居跡・貯蔵穴・墓跡等が発見されている（『高根 89』、『高根 92』）。中期後半の遺跡としては崎山地区のトロノ木Ⅳ遺跡、早稲栃Ⅱ遺跡、早稲栃Ⅲ遺跡、白石遺跡等がある。早稲栃Ⅲ遺跡は平成7年度から9年度まで調査が継続されており、中期末の複式炉を伴う竪穴住居跡群が検出している。白石遺跡では中期末から後期初頭の竪穴住居跡が検出しており、特に後期初頭の遺構・遺物は現段階では市内の遺跡ではほぼ唯一といえる（『崎山遺跡群 Ⅱ～Ⅴ』）。
- 後期から晩期になると遺跡数が減少する傾向があるが、近内中村遺跡や大付遺跡等がある。平成6年度から調査が継続されている近内中村遺跡では、中期末の複数のタイプの複式炉を伴う竪穴住居跡群、その上層に後期末の窟付土器群に伴う竪穴住居跡・墓域・配石遺構・貝塚等が、そして晩期の竪穴住居跡・墓域・貯蔵穴・貝塚等が検出している。中には、晩期初頭の方形の竪穴住居跡や後期末の環状配石等の遺構が検出している。また、巻貝形土器や香炉形土器・注口土器等の完形土器、土製品・石製品等の遺物が多数出土している。
- このように、宮古市内では現在まで数多くの縄文時代の遺跡の発掘調査が実施されてきているが、千鷄Ⅳ遺跡や早稲栃Ⅲ遺跡や近内中村遺跡等現在も調査中または整理作業中の部分も多く、今後、これらの成果がまとめられることにより、より一層宮古地方の縄文時代の様相が解明されていくものと思われる。

II 調査内容

1. 遺跡の基本層序と遺構の検出状況

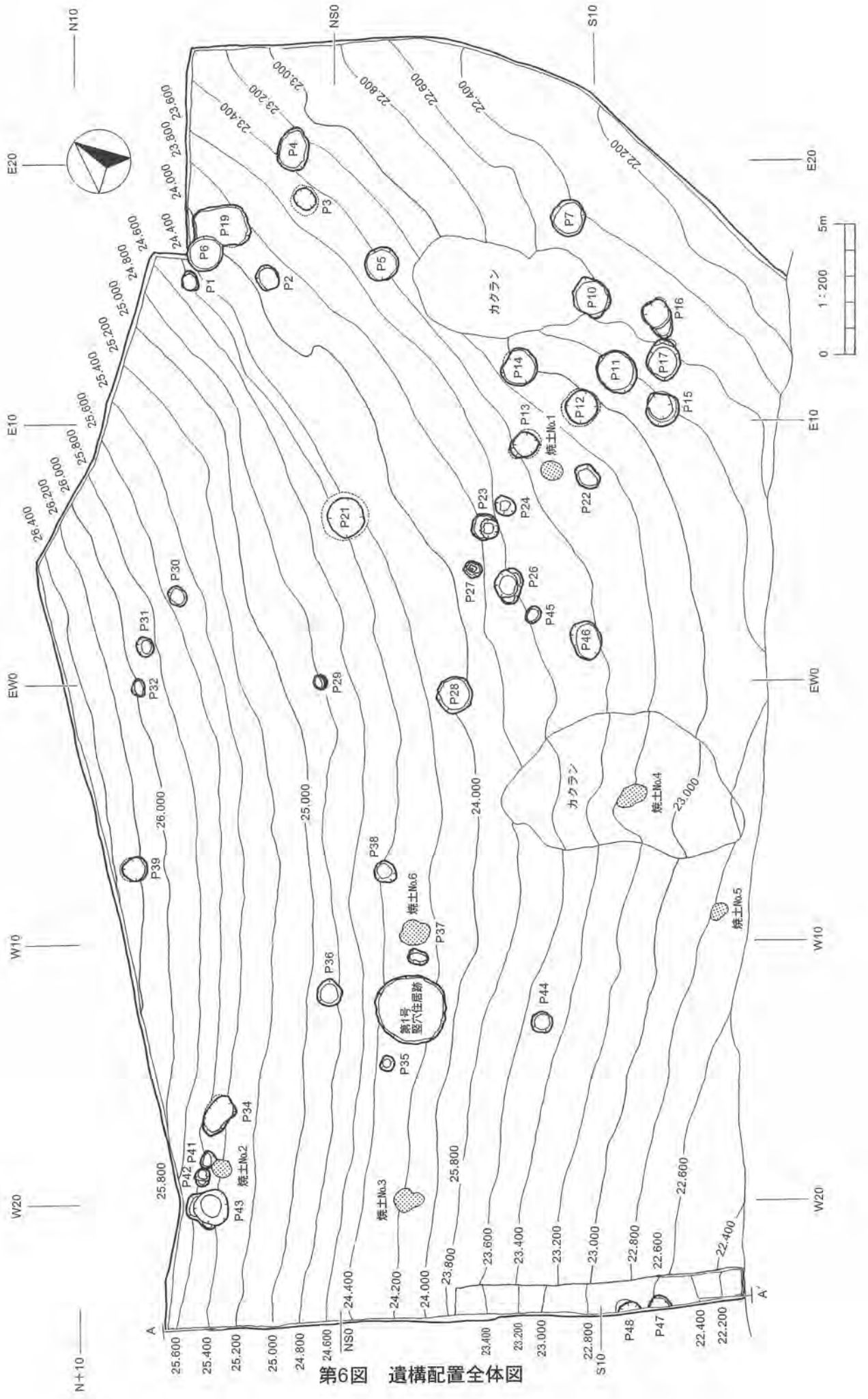
遺跡の基本的な層序は調査区の西壁の土層観察により確認した(第6図)。調査区の現状が緩やかな斜面を畑地として利用されていたため、標高の高い方が削平されており表土も薄い。そのため、一部の遺構は上部の削平がみられた。確認された基本層序は次の通りである。

基本層序

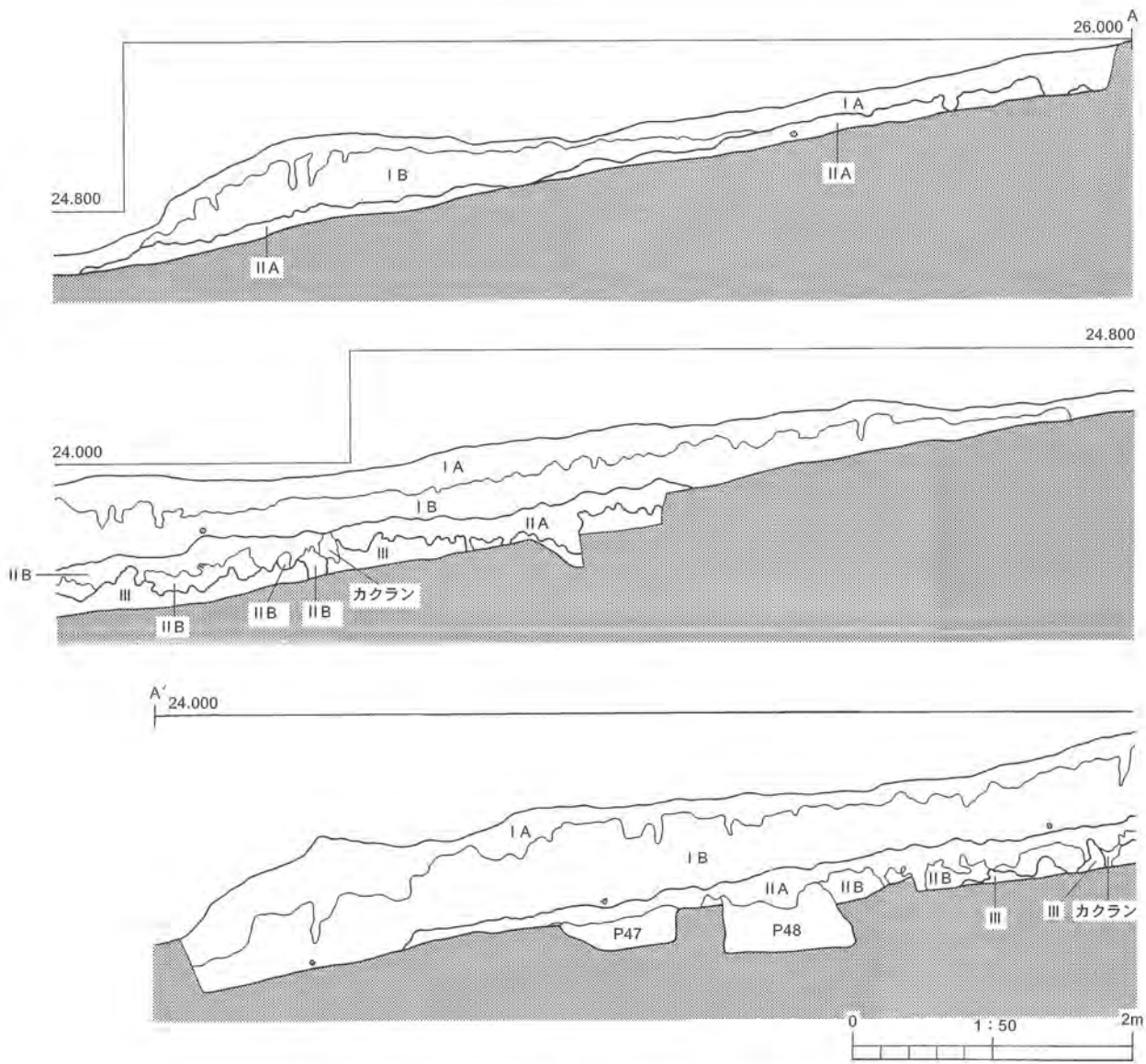
- I a 層 表土。現耕作土上層で暗褐色土を基本とする。土器・石器等の遺物を包含するが、極く微量である。斜面下部(調査区南側)では若干厚くなるが、全体的には少ない。
- I b 層 表土。現耕作土下層で黒褐色土を基本とする。小礫が少量混入する。木根、耕作による攪乱が著しい。
- II a 層 一部で途切れるが調査区のほぼ全域を覆う。黒褐色土を基本とする。遺物包含層であるが、近現代のものも包含する。この層を剥いだ段階で遺構を検出している。
- II b 層 調査区の南側に断続的に薄く堆積する。褐色土を基本とする。炭化物片を微量ながら含む。縄文時代の遺構の掘り込み面であるが、弥生時代の竪穴住居跡部分には無いため弥生時代の遺構の掘り込み面であるかは確認できなかった。
- III 層 地山とした層で黄褐色土を基本とする火山灰層である。小礫が少量混入する。遺構はこの層を掘り込んでいる。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
I a	10YR3/4, シルト質, 粘性弱		軟・疎	
II b	10YR3/3, シルト質, 粘性弱		中～硬・中～密	小れき少量含む
II a	10YR3/3粘土+シルト質, 粘性中	10YR3/4, 粘土+シルト質, 塊, 30%, 粘性中 10YR4/6, 粘土+シルト質, 塊, 15%, 粘性中	中～硬・中～密	小れき含む。遺物包含層
II b	10YR4/4, 粘土質, 粘性強	10YR5/6, 粘土質, 塊, 10%, 粘性強 10YR3/4, 粘土質, 塊, 5%, 粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。遺物包含層
III	10YR5/6, 粘土質, 粘性強	10YR4/6, 粘土質, 塊, 20%, 粘性強	中～硬・中～密	

遺構は、調査区のほぼ全域に検出しているが、縄文時代のフラスコ形土坑は比較的調査区の東南部に多く検出している。弥生時代の竪穴住居跡は調査区の西側に検出しているが、1棟しか検出していないため詳細は不明である。焼土遺構はII b層を剥いだ段階で検出したため、おそらく削平されたものと考えられるがその所属時期は確定できなかった。



焼土配置全体図



第7図 基本層序図（調査区西壁、土層断面図）

2. 検出した遺構・遺物

A. 縄文時代の遺構・遺物

第1号土坑跡(第8図)

調査区の北東部に位置する。平面形は楕円形。規模は0.75×0.60m、深さ0.10mをはかる。

埋土は自然堆積で黒褐色土主体のA層からなる。壁は底面から緩やかに立ち上がる浅い皿状を呈する。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3、シルト質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・中～密	

第2号土坑跡(第8図)

調査区の北東部に位置する。平面形は楕円形。規模は0.90×0.85m、深さ0.10mをはかる。

埋土は自然堆積で暗褐色土主体のA層。壁は底面から緩やかに立ち上がる浅い皿状を呈する。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、シルト質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、10% 10YR2/3、シルト質、塊、5%、粘性中	硬・密	平成4年試掘時に半掘

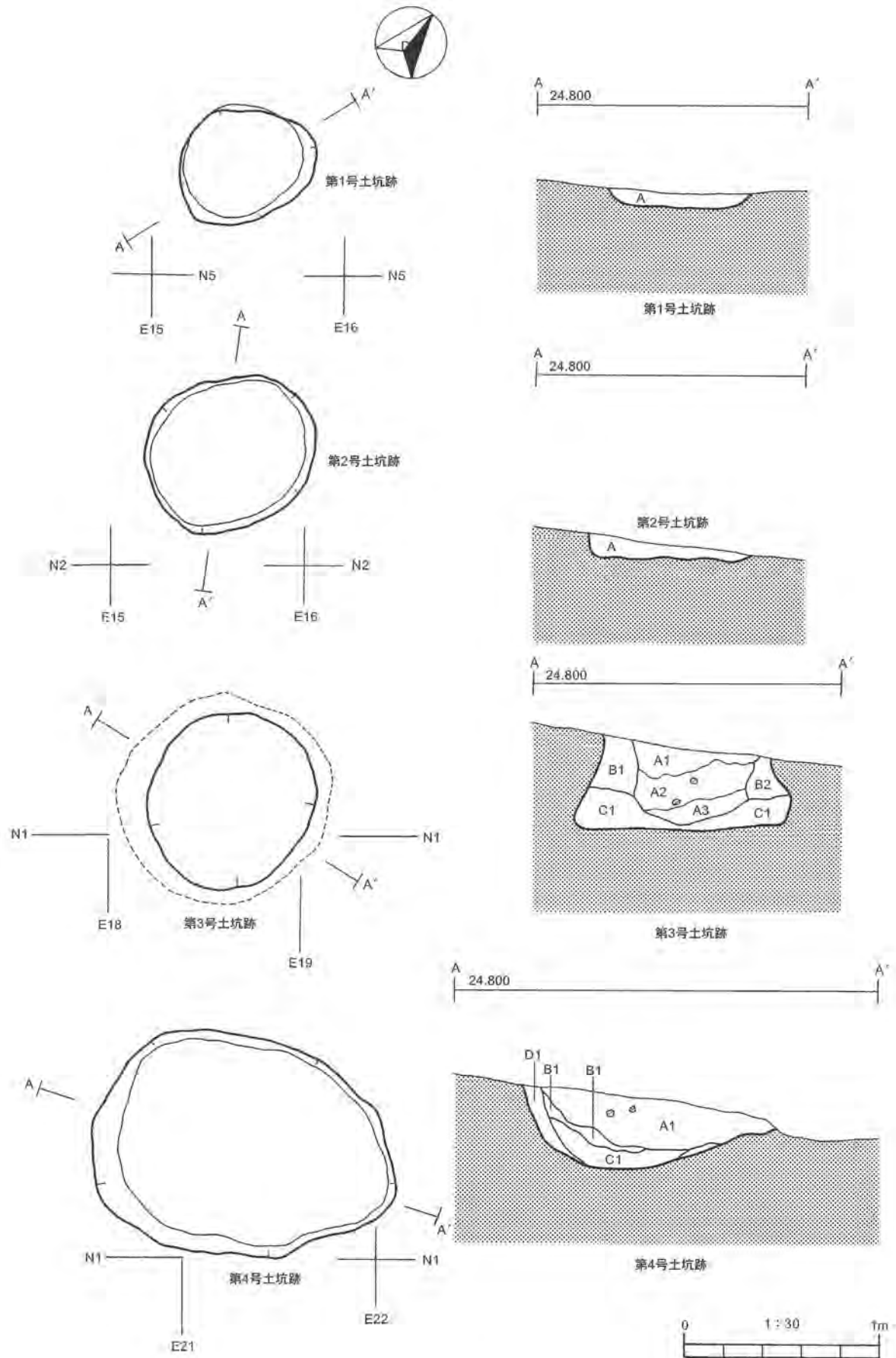
第3号土坑跡(第8図)

フラスコ形土坑

調査区の北東部に位置する。フラスコ形土坑で平面形はほぼ円形。規模は上端0.95×0.85m、下端1.10×1.10m、深さ0.50mをはかる。

埋土は人為堆積で3層に大別される。埋土上部から下部のA層は暗褐色から褐色土主体で3層に細分される。B層は暗褐色から褐色土主体で2層に細分される。C層は暗褐色土を主体とする。各層ともほぼ類似した土色・土性でほとんど時間差なく埋め戻されている。壁は底面から内傾し上端部で開口する。底面は平坦面。遺物は埋土から土器片が若干量出土している。第24図1は深鉢形土器の胴部片で縦位に隆沈線を施文する。大木8式期に伴うもの。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3粘土+シルト質、粘性中	10YR3/2、粘土質、塊、5%、粘性強 10YR5/8、シルト質、粒、10%、粘性弱	硬・中～密	A層中一番暗い。 混入土は全体的に混入する
A2	10YR4/4粘土+シルト質、粘性中	10YR5/8、シルト質、粒、15%、粘性弱 10YR4/6、粘土+シルト質、塊、10%、粘性中	硬・中～密	小れき(径3～5cm)2個含む
A3	10YR3/4粘土+シルト質、粘性中	10YR5/8、シルト質、粒、10%、粘性	硬・中～密	A1層とA2層の中間色。
B1	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・密	
B2	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土+シルト質、塊、15%、粘性中	硬・中～密	B1層に似ている
C1	10YR3/3粘土+シルト質、粘性中	10YR3/2、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR5/8、シルト質、粒、5%、粘性弱	中～硬・中～密	A層に似ているがより黒っぽい



第8图 第1号土坑跡～第4号土坑跡

第4号土坑跡(第8図)

調査区の北東部に位置する。平面形は楕円形。規模は1.60×1.15m、深さ0.40mをはかる。

埋土は自然堆積で5層に大別される。埋土上部のA層は黒褐色土を主体とする。埋土中部のB層は褐色土を主体とする。C層は底面に堆積し黒褐色土を主体とする。D層は西壁側に堆積し黒褐色土を主体とする。E層は東壁側から底面にかけて堆積し暗褐色土を主体とする。壁は底面から緩やかに外傾しながら立ち上がる。底面は細かい段差を有し凹凸する。

遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3粘土+シルト質、粘性中	10YR4/6、シルト質、塊、5%、粘性中 10YR3/4、シルト質、粒、5%、粘性中	中～硬・中～密	小れき(径3～4cm)2個含む。 炭化物片微量含む。
B1	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR2/3、粘土+シルト質、塊、5%、粘性中 10YR3/4明、粘土質、塊、15%、粘性強	硬・中～密	
C1	10YR2/3、シルト質、粘性中	10YR4/6、シルト質、塊、10%、粘性中 10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・中～密	混入土は小ブロック
D1	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、15%、粘性強	硬・中～密	
E1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR4/6、粘土質、塊、15%、粘性強	硬・中～密	

第5号土坑跡(第9図)

フラスコ形土坑

調査区の東側に位置する。フラスコ形土坑で上部が削平されている。平面形はほぼ円形。規模は1.25×1.15m、深さ0.65mをはかる。

埋土は自然堆積で4層に大別される。上部のA層は黒褐色土を主体とし2層に細分、中部のB層は暗褐色土を主体とし2層に細分される。A層、B層は斜面上部から流れ込むように堆積する。C層は壁崩壊土で褐色土塊を含む暗黒褐色土を主体とする。D層は壁崩壊前に底面に堆積したもので黒褐色土を主体とする。壁はほぼ直立気味から内傾気味に立ち上がる。底面はほぼ平坦面である。

遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3粘土+シルト質、粘性中	10YR5/8、シルト質、粒、3%、粘性弱	中～硬・中～密	
A2	10YR3/4粘土+シルト質、粘性中	10YR5/8、シルト質、粒、5%、粘性弱 10YR4/4、シルト質、塊、15%、粘性弱	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
B1	10YR3/3粘土+シルト質、粘性中	10YR2/3、粘土+シルト質、塊、10%、粘性中 10YR4/4、シルト質、塊、5%、粘性弱 10YR5/8、シルト質、粒、3%、粘性弱	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
B2	10YR3/4、シルト質、粘性弱	10YR2/3、シルト質、塊、10%、粘性弱 10YR4/4、シルト質、塊、3%、粘性弱 10YR5/8、シルト質、粒、3%、粘性弱	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
C1	10YR3/3、シルト質、粘性弱	10YR4/6、粘土質、塊、20%、粘性強 10YR5/6、粘土質、塊、5%、粘性強	硬・中～密	

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
C2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、20%、粘性強 10YR3/3、シルト質、塊、10%、粘性弱	硬・中～密	
D1	10YR2/2粘土+シルト質、粘性強	10YR5/8、粘土質、塊、5%、粘性中 10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性中	中・中	全層中一番黒い土で土質が全く異なる

第6号土坑跡(第9図)

調査区の北東部に位置する。第19号土坑跡と重複し断面観察の結果、当土坑跡の方が新しい。平面形は円形。規模は1.35×1.30m、深さ0.35mをはかる。

埋土は自然堆積で4層に大別される。埋土上部のA層は黒褐色土を主体とし2層に細分される。B層は西壁側に堆積し褐色土を主体とする。C層は埋土中部から一部底面に堆積し黒褐色土を主体とし3層に細分される。D層は底面に堆積し褐色土を主体とする。壁は底面からやや外傾気味に立ち上がる。底面は若干傾斜する。

遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、5%、粘性強	硬・中～密	
A2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・密	
B1	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・密	
C1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、15%、粘性強	硬・中～密	C3層と類似
C2	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、3%、粘性強	硬・中～密	炭化物片微量含む。
C3	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・中～密	C1層と類似
D1	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR5/6、粘土質、塊、3%、粘性強	硬・中～密	

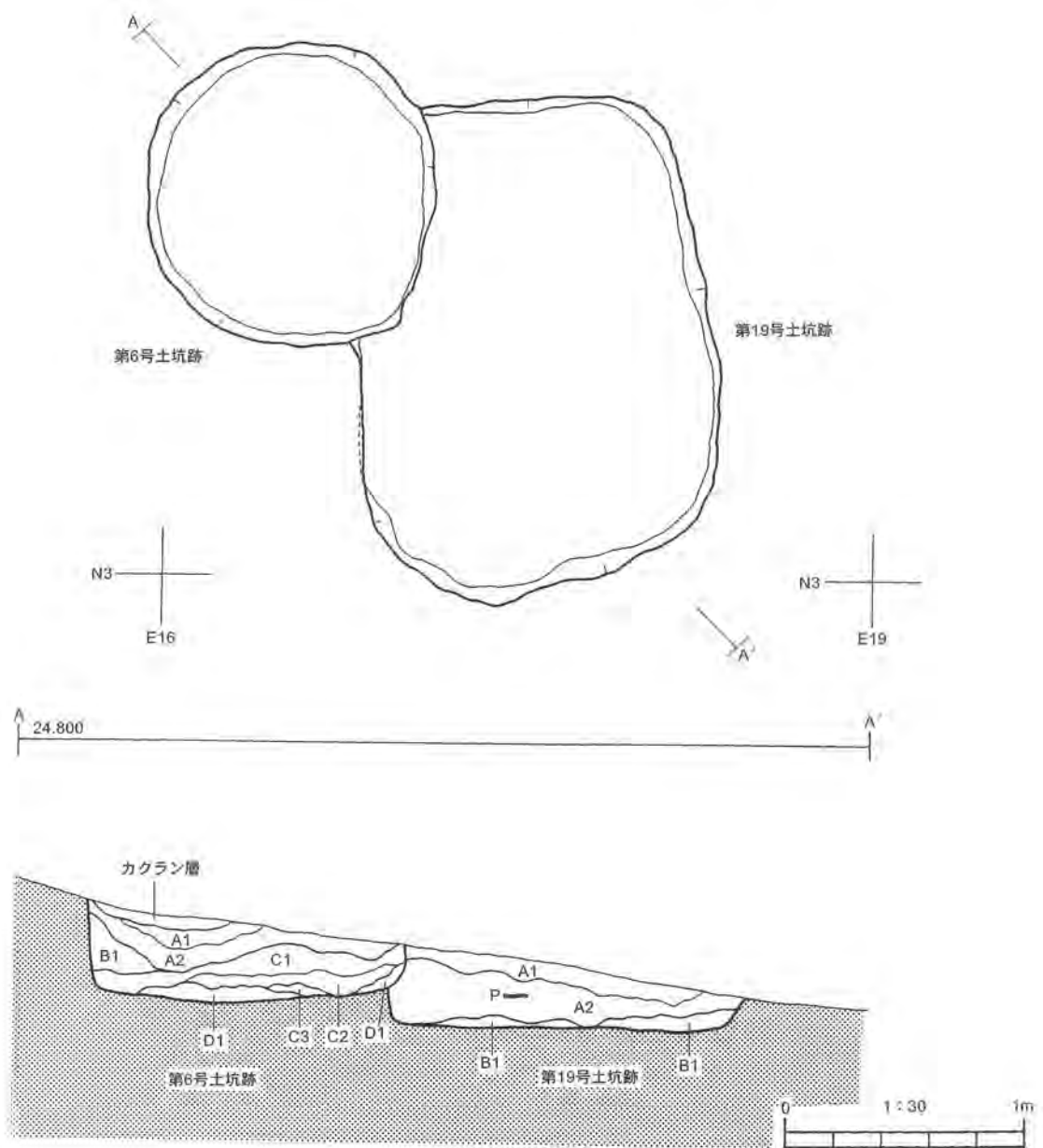
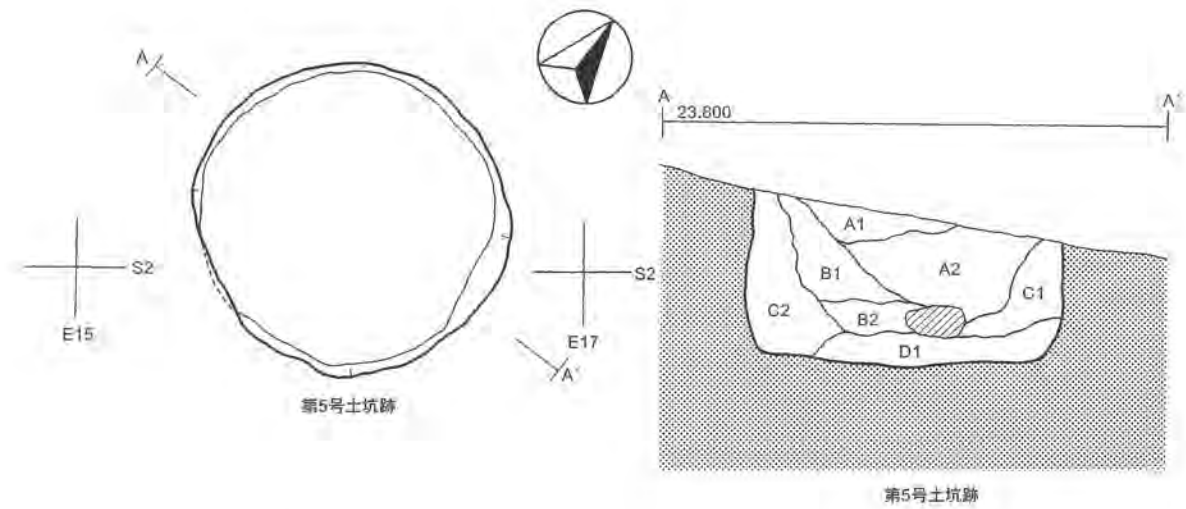
第19号土坑跡(第9図)

調査区の北東部に位置する。第6号土坑跡と重複し断面観察の結果、当土坑跡の方が古い。平面形は隅丸の方形。規模は2.20×1.50m、深さ0.30mをはかる。

埋土は自然堆積で2層に大別される。A層は粘性の弱い暗褐色土を主体とし2層に細分される。B層は粘性の強い褐色土を主体とする。壁は北～西側はほぼ直、南～東側は底面からやや外傾気味に立ち上がる。底面は平坦面である。

遺物はA2層から土器片、A1層から石匙2点が出土している。土器片は図示できなかったが縄文を施文するもの。石匙2点は第26図46、47でどちらも縦型。46は一方の側縁部が湾曲し湾曲部は両面から直線的な方は片面からの剥離で刃部を作っている。47も刃部は湾曲し急傾斜角度の刃部となる。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/4、シルト質、粘性弱	10YR4/4、シルト質、塊、5%、粘性弱	硬・密	石匙2点。
A2	10YR4/4、シルト質	10YR4/6、シルト質、塊、15%	硬・密	土器片含む。
B1	10YR4/6、粘土質、粘性強		硬・中～密	



第9図 第5号・第6号・第19号土坑跡

第7号土坑跡(第10図)

調査区の東部に位置する。平面形はほぼ円形。規模は1.35×1.25m、深さ0.30mをはかる。

埋土は自然堆積で、A層は粘性の有る暗～黒褐色土を主体とし2層に細分される。壁は底面から外傾し立ち上がる。底面はほぼ平坦面である。

遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR4/4、粘土質、塊、25%、粘性中	中～硬・中	炭化物片微量含む。
A2	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、5%、粘性強 10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中	

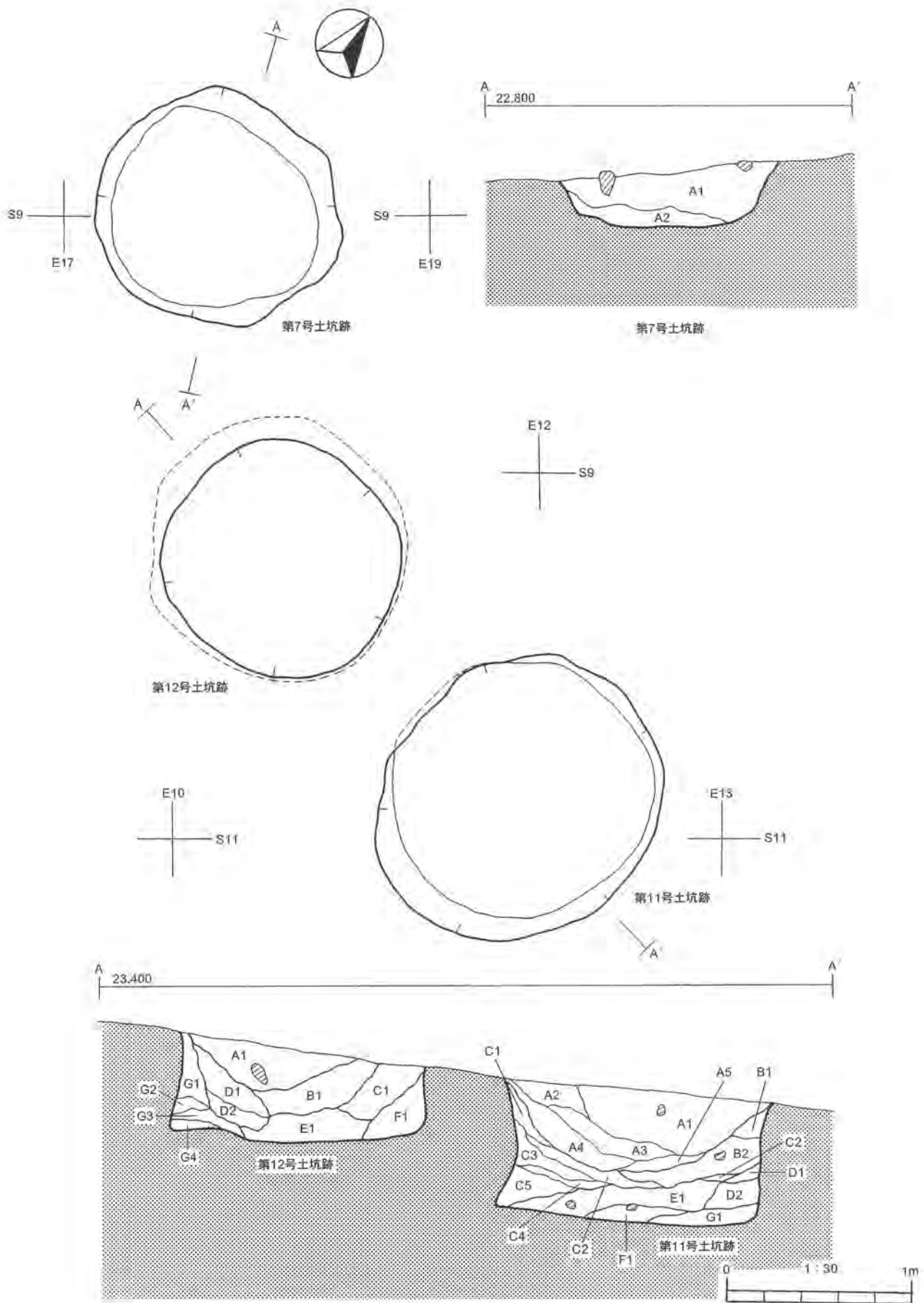
第12号土坑跡(第10図)

調査区の東南部に位置する。フラスコ形土坑で平面形はほぼ円形。規模は上端1.30×1.25m 下 端1.45×1.40m、深さ0.60mをはかる。 フラスコ形土坑

埋土は人為堆積で7層に大別される。埋土上部のA層は暗褐色土主体。埋土上部から中部のB層は黄褐色土主体。C層は東壁側に堆積し暗褐色土主体。D層はブロック状に投げ込まれた暗褐色土主体で2層に細分される。E層は底面中央部に堆積し褐色土主体。F層は東壁の黄褐色土主体。G層は壁崩壊土で暗褐色から褐色土主体で4層に細分される。壁は西から北側は底面から内傾し上端部で開口し東から南側はほぼ直に立ち上がる。底面は西側がやや高いがほぼ平坦面である。

遺物は埋土から土器片が若干量出土しているが、いずれも縄文主体で図示しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/4、粘土質、粘性中	10YR4/4、粘土質、塊、5%、粘性中	中～硬・中～密	れき含む
B1	10YR5/6、粘土質、粘性中	10YR3/3、粘土質、塊、20%、粘性中 10YR5/8、粘土質、塊、5%、粘性中	中～硬・中	
C1	10YR3/3、粘土質、粘性中～強	10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性中～強 10YR3/4、粘土質、塊、5%、粘性中～強	中・中～密	
D1	10YR3/3明、粘土質、粘性中～強	10YR4/6、粘土質、塊、25%、粘性中～強	中～軟・中～密	
D2	10YR3/3暗、粘土質、粘性中～強	10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性中～強	中～軟・中～密	炭化物片微量含む。
E1	10YR4/6、粘土質、粘性中～強	10YR3/4、粘土質、塊、20%、粘性強 10YR5/6、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・中～密	炭化物片微量含む。
F1	10YR5/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、15%、粘性強	硬・中～密	
G1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性強	硬・密	
G2	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・中～密	
G3	10YR3/3、粘土質、粘性強		硬・中～密	
G4	10YR4/6、粘土質、粘性強		硬・中～密	



第10図 第7号・第11号・第12号土坑跡

第11号土坑跡(第10図)

調査区の東南部に位置する。フラスコ形土坑で平面形はほぼ円形。規模は上端1.65×1.42m フラスコ形土坑
 下端1.40×1.35m、深さ0.70mをはかる。

埋土は自然堆積で7層に大別される。上部のA層は暗褐色土主体で5層に細分される。B層は東壁崩壊土で褐色土主体の2層に細分される。C層は西壁側崩壊土で黄褐色土主体で5層に細分される。D層は下位に堆積する暗褐色土主体。E層は底面中央部に堆積し黄褐色土主体。F層は底面に堆積し暗褐色土主体。G層も東壁側崩壊土で褐色土主体で2層に細分される。東壁側は2回崩壊している。壁は底面から内傾し立ち上がり上端部で開口する。底面はほぼ平坦面である。

遺物は埋土から土器片が若干量出土している。いずれも縄文主体で胎土に繊維を含む。第24図3は組縄縄文を施文するもので前期初頭から前半に伴うものである。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/4、粘土質、粘性中	10YR4/4、シルト質、塊、20%、粘性弱	中～硬・中	径1cm内の炭化物片、小れき少量含む。
A2	10YR3/3、シルト質、粘性弱	10YR4/4、シルト質、塊、5%、粘性弱 10YR2/3、シルト質、塊、5%、粘性弱	中～硬・中	
A3	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR4/4、粘土質、塊、5%、粘性 10YR3/4、粘土質、塊、20%、粘性	中～硬・中	炭化物片微量含む。
A4	10YR4/4、粘土質、粘性中	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR5/6、粘土質、塊、15%、粘性強	中～軟・中～密	
A5	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR4/4、粘土質、塊、15%、粘性	中・中	炭化物片大量に含む。
B1	10YR4/4、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、15%、粘性	中・中	
B2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、20%、粘性	中～軟・中	
C1	10YR5/6、粘土質、粘性中	10YR3/4、粘土質、塊、3%、粘性強	中～硬・中	
C2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR5/6、シルト質、塊、3%	中～硬・中	
C3	10YR5/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、3%、粘性強	中～硬・中	
C4	10YR3/4、粘土質、粘性強		中～硬・中	
C5	10YR5/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中	
E1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR5/6、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	
F1	10YR5/6、粘土質、粘性強		硬・密	れき少量含む。
G1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR5/6、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中	
D1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR4/4、粘土質、塊、15%、粘性有	中・中	
D2	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR3/3、粘土質、塊、15%、粘性強 10YR5/6、粘土質、塊、15%、粘性強	中～軟・中	10YR5/6は壁際に堆積。

第10号土坑跡(第11図)

フラスコ形土坑

調査区の東南部に位置する。北側が攪乱されているがフラスコ形土坑で平面形はほぼ円形。規模は上端1.60×1.25m、下端1.35×1.30m、深さ0.55mをはかる。

埋土はレンズ状に堆積する自然堆積で5層に大別される。埋土上部のA層は褐色土主体で粘性が強い。埋土中部のB層は暗褐色土主体で3層に細分される。C層は暗褐色土主体。D層は底面に堆積する明褐色土主体。E層は底面中央部に堆積する暗褐色土主体。壁は底面から内傾し立ち上がり上端で開口する。底面はほぼ平坦面である。

遺物は埋土から土器片が若干量出土している。いずれも縄文主体のものである。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、3%、粘性強 10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・中～密 中～硬・中	径5cm内円れき含む。炭化物片微量含む。
B1	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
B2	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中	炭化物片微量含む。
B3	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR5/8、粘土質、塊、25%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
C1	10YR3/3暗、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中	小れき少量含む。
D1	10YR5/8、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	
E1	10YR3/3、粘土質、粘性強		中～硬・中～密	

第8号土坑跡と第13号土坑跡(第11図)

第8号土坑跡

調査区の東南部に位置する。重複し第8号土坑跡の方が新しい。第8号土坑跡は、平面形は円形。規模は1.00×0.75m、深さ0.25mをはかる。

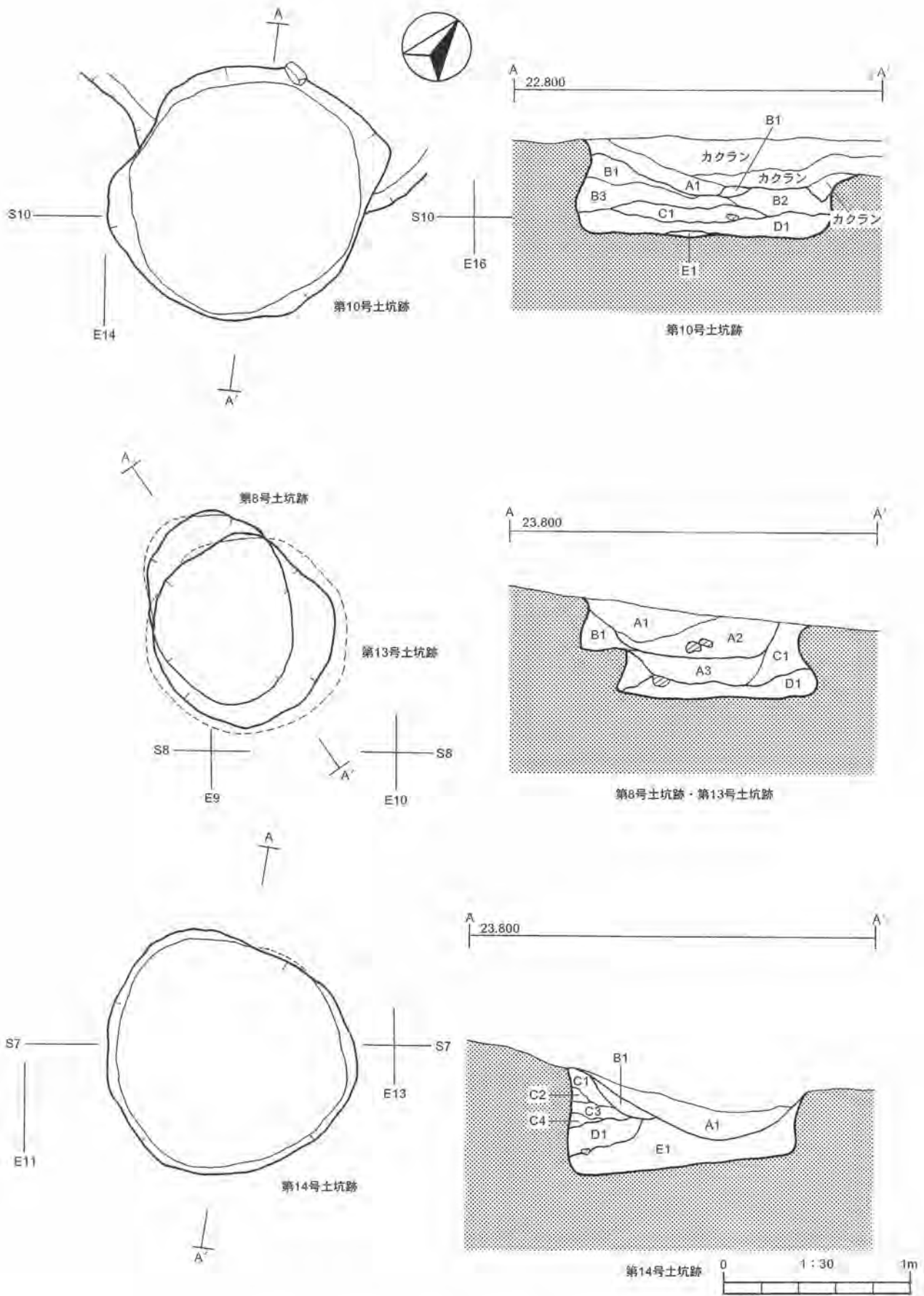
埋土はレンズ状に堆積する自然堆積で2層に大別される。埋土の大半を占めるA層は暗褐色土主体で2層に細分される。B層は黒褐色土主体で壁側に塊状に堆積する。壁は底面から直に立ち上がる。底面はほぼ平坦面である。遺物は出土しなかった。

第13号土坑跡
フラスコ形土坑

第13号土坑跡は、フラスコ形土坑で平面形はほぼ円形。規模は上端1.00×0.95m、下端1.10×1.10m、深さ0.60mをはかる。

埋土は自然堆積で3層に大別される。C層は褐色土主体。D層は褐色土主体の壁崩壊土で2層に細分される。E層は壁崩壊前に底面中央に堆積したもので暗褐色土主体。壁は底面から内傾し立ち上がり上端でやや開口する。底面はほぼ平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性中		中～硬・中～密	
A2	10YR3/4、粘土質、粘性中	10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性中	中～硬・中～密	径7cm円れき、角れき含む。炭化物片微量含む
B1	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、5%、粘性強	硬・中～密	炭化物片微量含む。
C1	10YR4/4、粘土質、粘性中	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性中	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
D1	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、20%、粘性強	硬・中～密	
D2	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、15%、粘性強 10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・中～密	
E1	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。



第11図 第10号・第8号・第13号・第14号土坑跡

第14号土坑跡(第11図)

調査区の東南部に位置する。平成4年試掘時に半掘したもの。平面形はほぼ円形。規模は1.35×1.30m、深さ0.60mをはかる。

埋土は自然堆積で5層に大別される。上部のA層は暗褐色土主体。B層は褐色土主体。C層、D層は壁崩壊土で、C層は暗褐色土から褐色土を主体とし4層に細分される。D層は壁崩壊前に底面に堆積した褐色土を主体とする。壁は底面から内傾し立ち上がり上端で開口する。底面はほぼ平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/4、シルト質、粘性弱	10YR5/8、塊、シルト質、15%、粘性弱	中～軟・中～疎	れき微量含む。
B1	10YR4/4、シルト質、粘性弱	10YR5/8、塊、シルト質、10%、粘性弱 10YR2/3、塊、シルト質、5%、粘性弱	中・中	
C1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、15%、粘性中	硬・中～密	
C2	10YR4/6、粘土質、粘性中		硬・中～密	
C3	10YR3/4、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性中	中～硬・中～密	
C4	10YR5/6、粘土質、粘性強		硬・中～密	
D1	10YR3/3、シルト質、粘性弱	10YR5/6、シルト質、塊、10%粘性弱	中・中	れき微量含む。
E1	10YR4/6、シルト質、粘性弱	10YR3/4、シルト質、塊、10%、粘性弱 10YR4/4、シルト質、塊、5%、粘性弱	中・中	

第15号土坑跡(第12図)

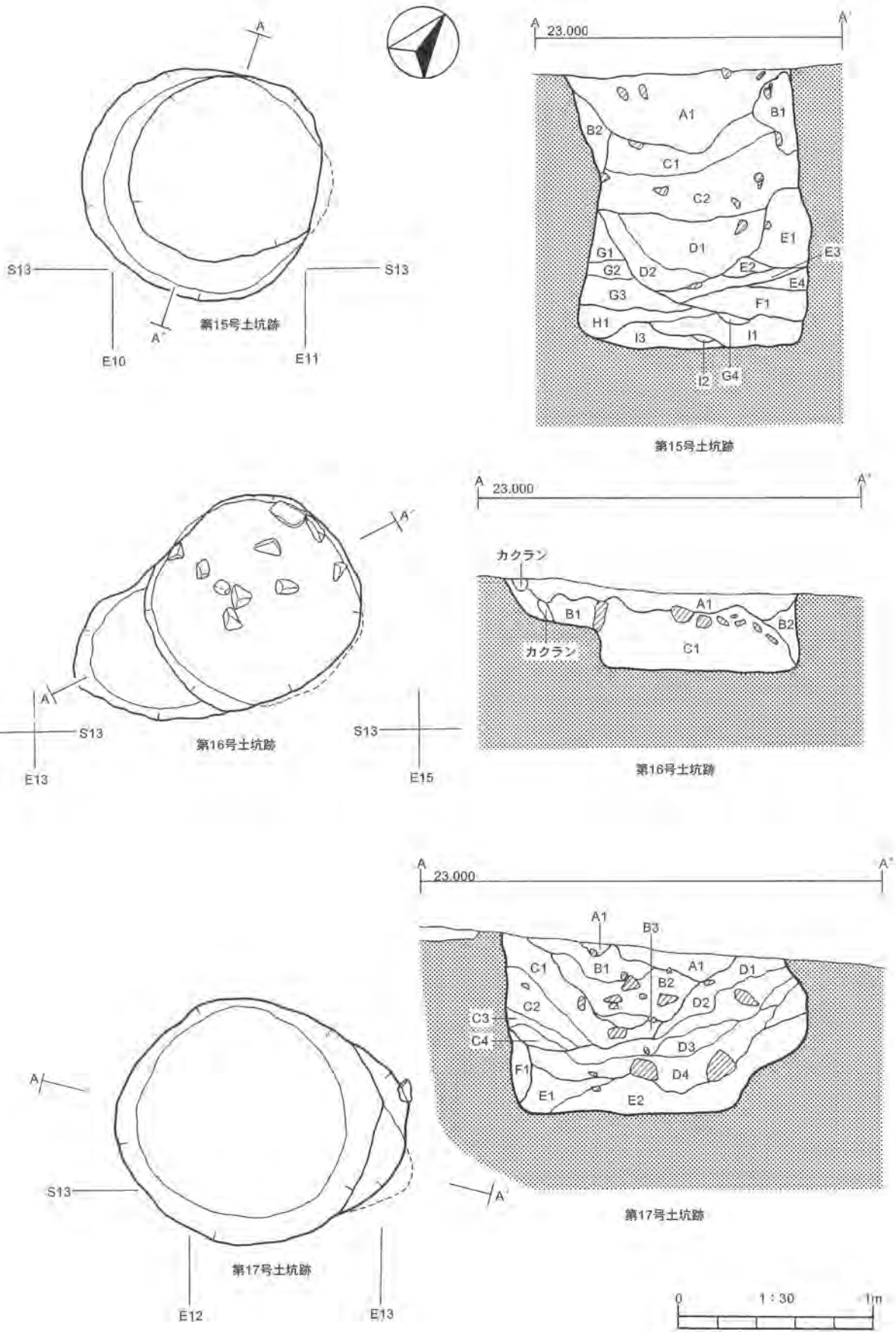
フラスコ形土坑

調査区の東南部に位置する。フラスコ形土坑で平面形は円形。規模は上端1.20×1.20m、下端1.20×1.10m、深さ1.45mをはかる。

埋土は9層に大別される。C層以下H層間には人為的に埋め戻ししている。埋土最上部のA層は自然堆積で暗褐色土主体。B層は攪乱ないしは掘りすぎと思われ褐色土主体で2層に細分される。埋土上部のC層は暗褐色土主体で2層に細分されを多量に含む。埋土中部のD層は褐色土主体。E層は黄褐色土ないしは暗褐色土を主体とし4層に細分される。F層は暗褐色土主体。G層は人為的埋め戻し前に底面に自然堆積したもので暗褐色土ないしは褐色土主体で4層に細分される。H層は暗褐色土主体。I層は黄褐色土ないしは暗褐色土を主体とし3層に細分される。壁は西から南側は底面から内傾し上端で開口し東から北側は直に立ち上がる。底面はほぼ平坦面である。

遺物は埋土から土器片が若干量出土している。いずれも縄文主体で胎土に繊維を含む。第24図5で縄文を施文するもので前期初頭から前半に伴うものである。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中	風化れき多量含む。
B1	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR3/2、粘土質、塊、15%、粘性中 10YR3/3、粘土質、塊、20%、粘性中	中～軟・中～密	
B2	10YR5/6、粘土質、粘性強		中～硬・密	れき微量含む。掘りすぎか。
C1	10YR3/3暗、粘土質、粘性強	10YR3/3明、粘土質、塊、20%、粘性強	中・中	風化れき多量含む。



第12図 第15号土坑跡～第17号土坑跡

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
C2	10YR3/4明、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、20%、粘性強	中・中	れき多量含む。
D1	10YR3/4暗、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性強	中・中	れき含む。
D2	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強	中・中	れき微量含む。
E1	10YR5/6、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、30%、粘性強	中・中	れき微量含む。
E2	10YR3/3、粘土質、粘性強		中～軟・中	
E3	10YR4/3、粘土質、粘性強	10YR5/6明、粘土質、塊、10%、粘性強	中～軟・中	れき含む。
E4	10YR5/6暗、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、25%、粘性強	中～軟・中	
F1	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、10%、粘性強	中～軟・中	れき微量含む。炭化物片微量含む。
G1	10YR5/6明、粘土質、粘性強		中～軟・中	れき微量含む。
G2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、3%、粘性強	中～軟・中	れき微量含む。
G3	10YR5/6暗、粘土質、粘性強	10YR5/6明、粘土質、塊、30%、粘性強	中～軟・中	れき微量含む。
G4	10YR5/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、20%、粘性強	中～軟・中	れき微量含む。
H1	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、20%、粘性強	中～軟・中	れき微量含む。炭化物片微量含む。
I1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、3%、粘性強 10YR3/4、粘土質、塊、15%、粘性強	中～軟・中	れき微量含む。炭化物片微量含む。
I2	10YR5/6、粘土質、粘性強		中～軟・中	
I3	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、15%、粘性強	中～軟・中	炭化物片微量含む。

第16号土坑跡(第12図)

調査区の東南部に位置する。平面形はほぼ楕円形。規模は1.55×1.00m、深さ0.40mをはかる。

埋土は人為堆積で3層に大別される。埋土上部のA層は暗褐色土主体で粘性が強い。B層壁側に堆積し褐色土主体で2層に細分される。C層は底面に堆積する暗褐色土主体で大～中礫を大量に含む。壁は底面からほぼ直に立ち上がる。底面は南西側に段差を有す。

遺物は出土していない。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/4明、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性中	中・中～密	径1cm内炭化物片大量に含む。れき少量含む。
B1	10YR5/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中～密	
B2	10YR4/4、シルト質、粘性弱	10YR5/8、粘土質、塊、10%、粘性中	中～硬・中～密	
C1	10YR3/4、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性中	中～軟・中	大～中れき大量に含む。

第17号土坑跡 (第12図)

調査区の東南部に位置する。東壁側が大きくえぐれるがフラスコ形土坑で平面形はほぼ円形。 フラスコ形土坑
規模は上端1.50×1.45m、下端1.10×1.10m、えぐれる東壁側は径1.60m、深さ0.90mをはかる。

埋土は自然堆積で6層に大別される。埋土最上部のA層は暗褐色土主体。埋土上部のB層は明褐色土主体で3層に細分され特にB2層には大量の礫を含む。C層は壁崩壊土で褐色土主体で4層に細分される。D層も壁崩壊土で暗褐色～褐色土を主体とし5層に細分される。E層は壁崩壊前の底面に堆積し褐色土主体。F層は黄褐色土主体でブロック状に堆積したもの。壁は東壁側が大きくえぐれるが以外はほぼ直に立ち上がる。底面はほぼ平坦面である。

遺物は埋土から土器片が若干量出土している。第24図5～13までで、5・12・13は底部片で、それ以外は頸部、胴部片である。12・13以外はいずれも縄文を主体として施文するものである。5・13は木葉痕、12は網代痕がみられる。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/4、粘土質、粘性中	10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性中 10YR5/8、粘土質、塊、3%、粘性中	中～硬・中	径3cm内の小れき少量含む。
B1	10YR5/6、シルト質、粘性弱	10YR3/4、粘土質、塊、5%、粘性中	硬・中～密	大れき含む。
B2	10YR4/4明、シルト質、粘性弱	10YR3/4、粘土質、塊、15%、粘性中 10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性中	中～軟・中	大～小れき大量に含む。炭化物片微量含む。
B3	10YR5/6、粘土質、粘性中	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強	中・中	
C1	10YR4/4暗、粘土質、粘性中	10YR3/3、粘土質、塊、15%、粘性中 10YR5/6、粘土質、塊、5%、粘性中	中・中	炭化物片微量含む。大～小れき少量含む。
C2	10YR4/6、粘土質、粘性中	10YR4/4、粘土質、塊、15%、粘性中	中～硬・中	径7cmのれき。土器片含む。
C3	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性中	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
C4	10YR5/6、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性中	中～硬・中～密	
D1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性中	中～軟・中	土器片含む。炭化物片微量含む。径7cmのれき。
D2	10YR3/4、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、20%、粘性中	中～軟・中	土器片含む。炭化物片微量含む
D3	10YR4/4、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、15%、粘性中	中～軟・中	
D4	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、15%、粘性強	中～軟・中	
D5	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、3%、粘性強	中・中～密	
E1	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、15%、粘性強	中～軟・中	
E2	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、20%、粘性強	中～軟・中	小れき少量含む。
F1	10YR5/6、粘土質、粘性強		中～軟・中	

第21号土坑跡(第13図)

フラスコ形土坑

調査区の中央東側に位置する。フラスコ形土坑で平面形は円形。規模は上端1.50×1.40m、下端1.88×1.84m、深さ1.40mをはかる。

埋土は自然堆積で6層に大別される。埋土上部～中部のA層はレンズ状に堆積する暗褐色土主体で4層に細分される。B～E層は壁崩壊土で多量の混入土塊を含む。B層は暗褐色土主体、C層は黒褐色土主体、D層は暗褐色土主体で2層に細分、E層は褐色土主体とし3層に細分される。F層は壁崩壊前の底面に堆積したもので黒褐色土を主体2層に細分される。壁は底面から内傾し上端で開口する。底面はほぼ平坦面である。

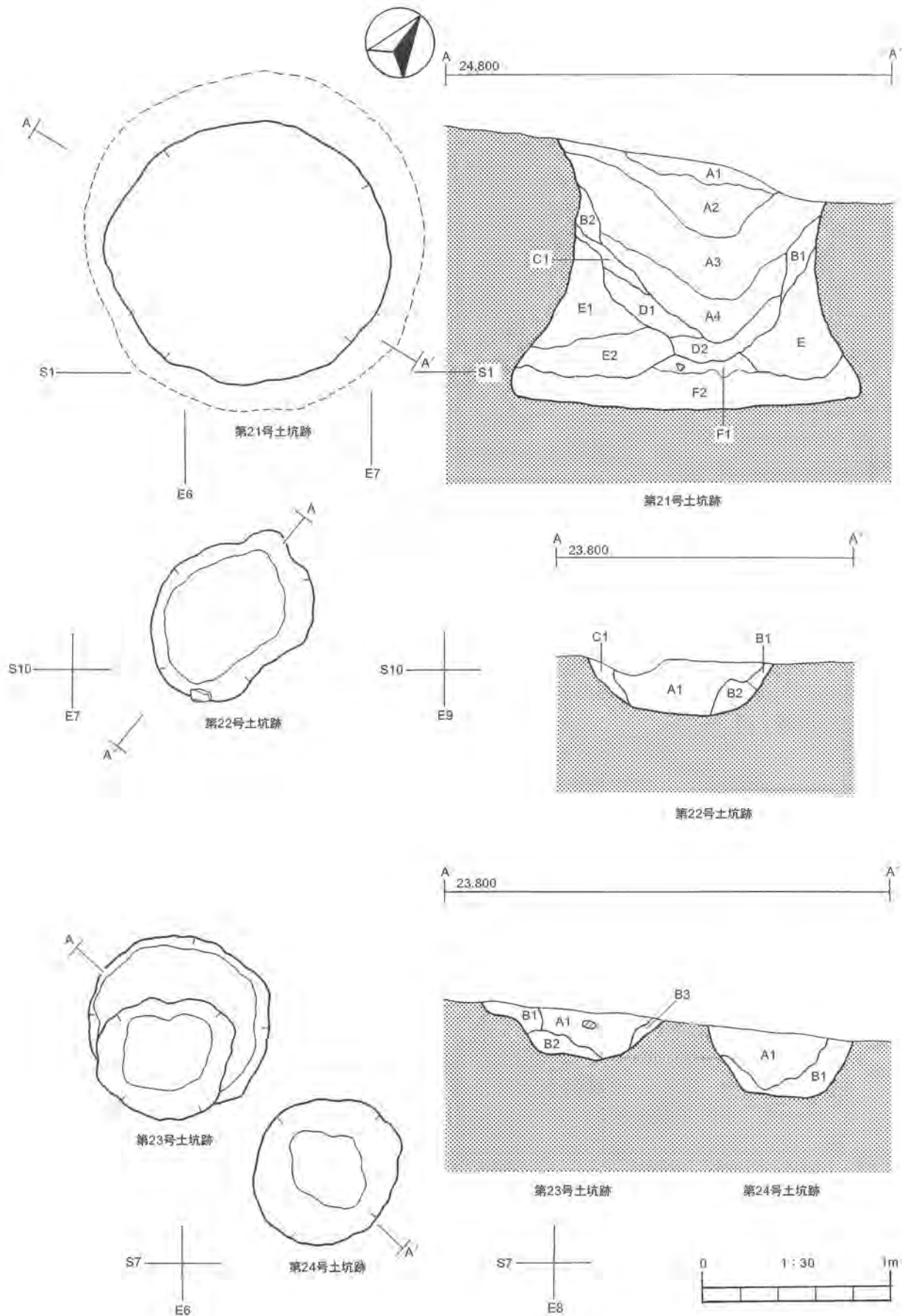
遺物は出土していない。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR3/2、粘土質、塊、5%、粘性強	硬・中～密	炭化物片微量含む。
A2	10YR3/2、粘土質、粘性強	10YR2/3、粘土質、塊、5%、粘性強	硬・中～密	炭化物片微量含むがA1層より多い。
A3	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
A4	10YR3/2、粘土質、粘性強	10YR3/3、粘土質、塊、20%、粘性強 10YR4/6、粘土質、塊、20%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
B1	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・中～密	
B2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、20%、粘性強	硬・中～密	
C1	10YR3/2、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、5%、粘性強	硬・中～密	炭化物片微量含む。
D1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、15%、粘性強 10YR3/2、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・中～密	炭化物片微量含む。
D2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR3/3、粘土質、塊、20%、粘性強 10YR3/2、粘土質、塊、5%、粘性強	硬・中～密	炭化物片微量含む。
E1	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、15%、粘性強	中・中	
E2	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR3/4、粘土質、塊、5%、粘性強	中・中	
E3	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、10%、粘性強	中・中	
F1	10YR3/3、粘土、粘性強	10YR3/4、粘土、塊、3%、粘性強 10YR4/6、粘土、塊、3%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
F2	10YR3/2、粘土、粘性強	10YR4/6、粘土、塊、3%、粘性強	中～硬・中～密	

第22号土坑跡(第13図)

調査区の東南部に位置する。平面形は不整な楕円形。規模は1.00×0.70m、深さ0.30mをはかる。埋土は自然堆積で3層に大別される。A層は黒褐色土、B層、C層は暗褐色土主体である。壁は底面から外傾しながら立ち上がり、底面はほぼ平坦面である。

遺物は埋土中から土器片が数点出土している。第24図18のようにいずれも縄文のみの施文である。



第13图 第21号土坑跡～第24号土坑跡

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR3/3、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	土器片含む。
B1	10YR3/4、粘土質、粘性強		硬・密	
B2	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、3%、粘性強	硬・密	
C1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、20%、粘性強	硬・中～密	

第23号土坑跡 (第13図)

調査区の東南部に位置する。平面形はほぼ円形。規模は1.00×0.95m、深さ0.25mをはかる。埋土は自然堆積で2層に大別される。A層は黒褐色土、B層は褐色土主体で4層に細分される。壁は底面から緩やかに外傾しながら立ち上がり、底面は0.15m程の段差を有する。遺物は埋土中から土器片が数点出土しているが、第24図14のように縄文のみの施文である。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、3%、粘性強 10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。円れき少量含む。
B1	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
B2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性強	中・中～密	
B3	10YR4/4、粘土質、粘性強		中～硬・中～密	

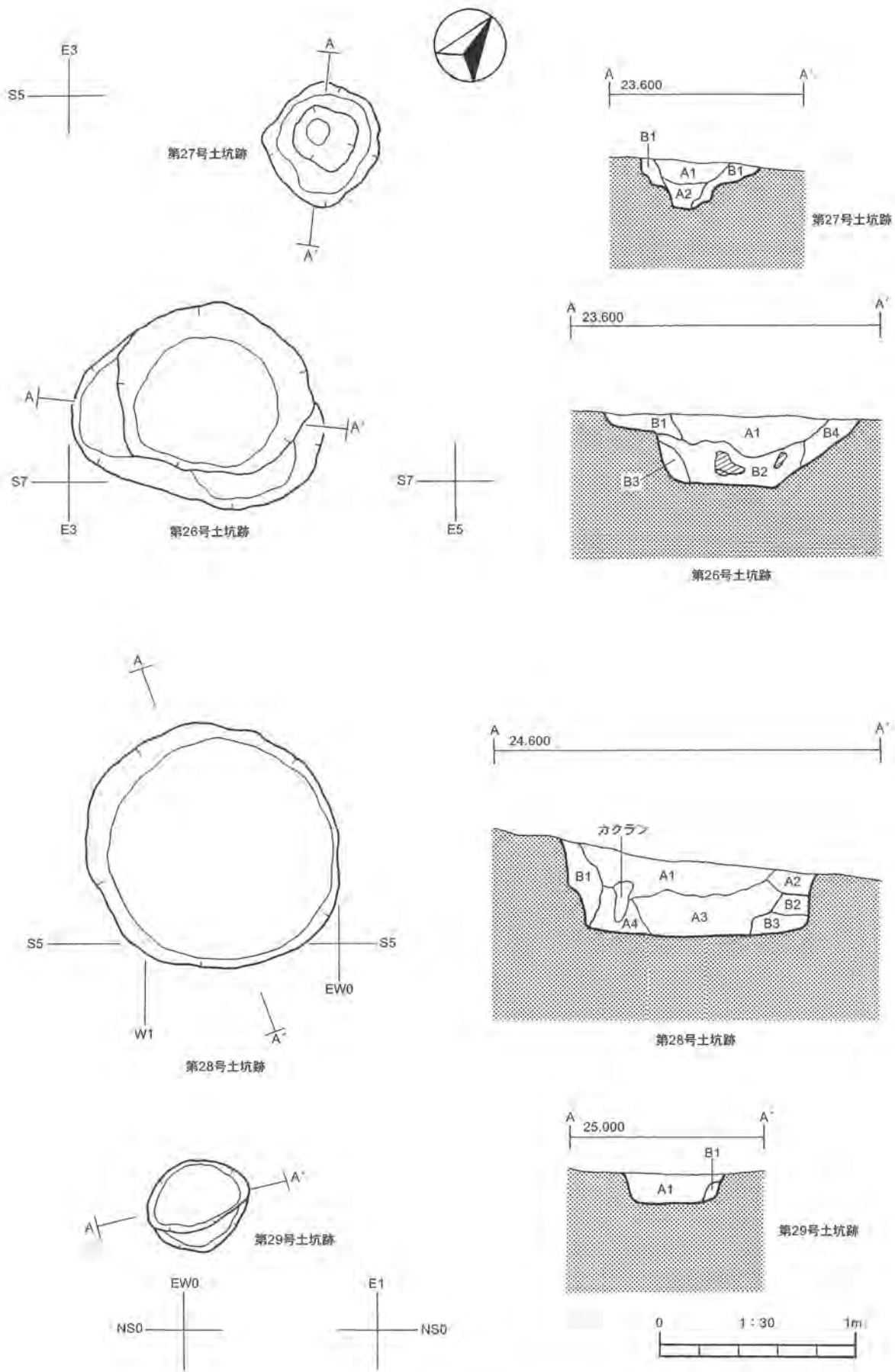
第24号土坑跡 (第13図)

調査区の東南部に位置する。平面形は円形。規模は0.80×0.75m、深さ0.35mをはかる。埋土は自然堆積で2層に大別される。A層は黒褐色土、B層は暗褐色土主体とする。壁は底面から直からやや外傾しながら立ち上がり、底面はほぼ平坦面である。遺物は埋土中から土器片が数点出土しているが、第24図18、19のようにいずれも縄文のみの施文である。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3、粘土質、粘性中	10YR3/3、粘土質、塊、15%、粘性中 10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性中	中・中～密	炭化物片微量含む。
B1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、20%、粘性中 10YR2/3、粘土質、塊、5%、粘性中	中・中～密	れき少量含む。

第27号土坑跡 (第13図)

調査区の東南部に位置する。平面形は不整な円形。規模は0.65×0.60m、深さ0.25mをはかる。埋土は人為堆積で2層に大別される。中央のA層は暗褐色土主体で2層に細分、B層は褐色土主体。遺物は埋土中から土器片が1点出土している。第24図26で縦位の隆沈線文を施文する。中期中葉頃のものと思われる。



第14図 第26号土坑跡～第29号土坑跡

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性中 10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性中	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
A2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
B1	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中～密	

第26号土坑跡(第14図)

調査区の東南部に位置する。平面形は不整な楕円形。規模は1.30×1.00m、深さ0.40mをはかる。埋土は人為堆積で2層に大別される。中央のA層は黒褐色土主体で2層に細分、B層は暗褐色土主体で4層に細分される。

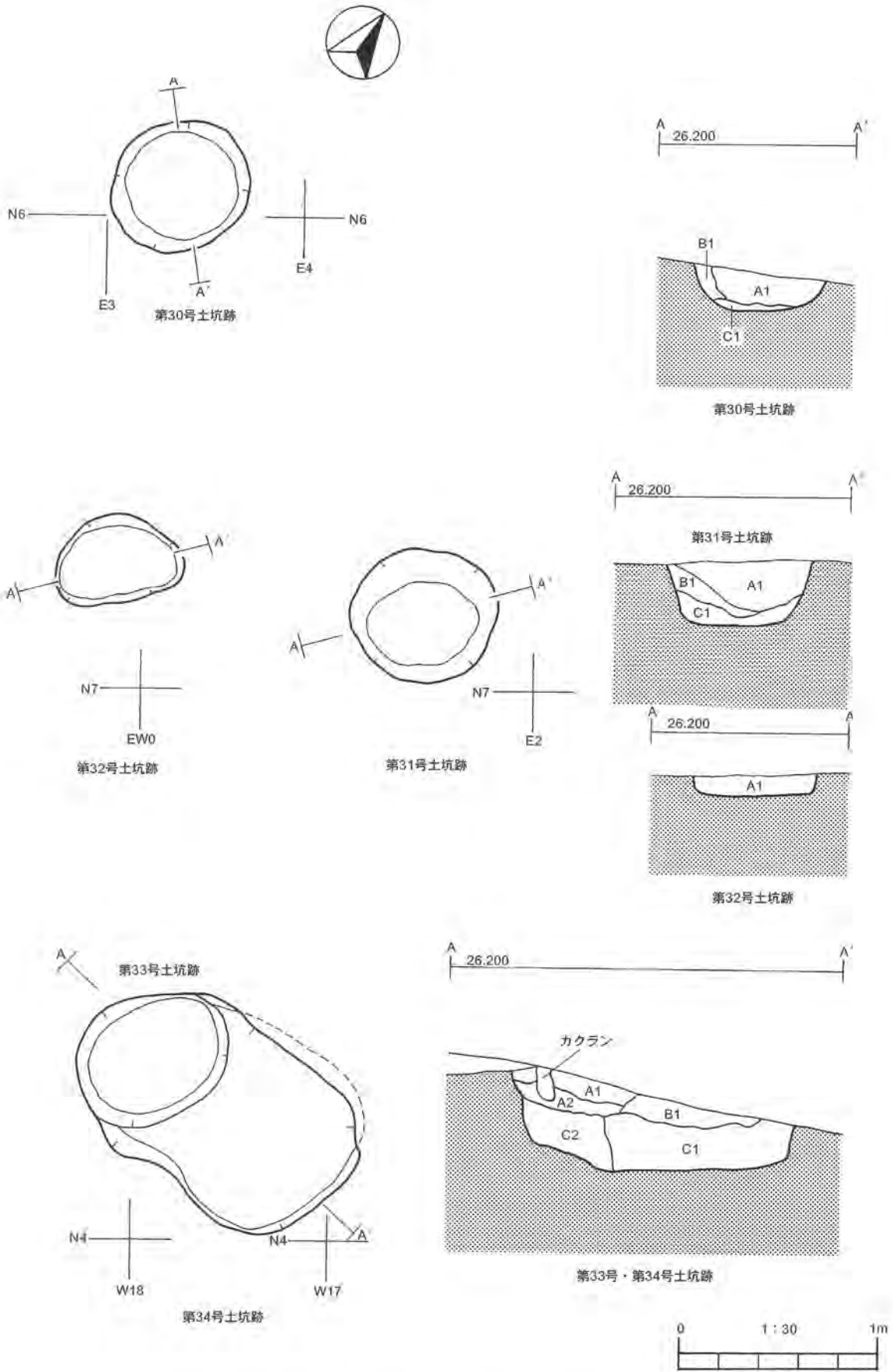
遺物は埋土中から土器片が少量出土している。第24図20～23の4点を図示した。20は口縁部片で無文部に平行する隆沈線文を施文する。21は20と同一破片、22、23は胴部片で隆沈線文を施文し23は楕円形の区画文を施文するもの。中期中葉頃のものと思われる。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3、粘土質、粘性中	10YR5/6、粘土質、塊、3%、粘性中	中～軟・中～密	
A2	10YR2/2、粘土質、粘性中	10YR5/6、粘土質、塊、10%、粘性中 10YR2/3、粘土質、塊、10%、粘性中	中～軟・中～密	れき多量に含む。
B1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性中	中～軟・中～密	
B2	10YR2/3、粘土質、粘性中	10YR3/4、粘土質、塊、5%、粘性中	中～軟・中～密	
B3	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性中	中～軟・中～密	
B4	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR5/6、粘土質、塊、3%、粘性中 10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性中	中～軟・中～密	

第28号土坑跡(第14図)

調査区のほぼ中央部に位置する。フラスコ形土坑で平面形はほぼ円形。規模は1.35×1.30m、深さ0.40mをはかる。埋土は人為堆積で2層に大別される。中央のA層は黒褐色土主体で4層に細分、B層は壁崩壊土と思われる褐色土主体で3層に細分される。壁は底面からほぼ直に立ち上がり、底面はほぼ平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性強	中・中	炭化物片微量含む。
A2	10YR3/2、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中	炭化物片微量含む。
A3	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR2/3、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR4/6、粘土質、粒、3%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
A4	10YR2/3明、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、20%、粘性強 10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中～密	
B1	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、25%、粘性強	中～硬・中～密	
B2	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中～密	
B3	10YR2/3暗、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、3%、粘性強	中・中	



第15図 第30号・第31号・第32号・第33号・第34号土坑跡

第29号土坑跡 (第14図)

調査区の中央部に位置する。小土坑で平面形は楕円形。規模は0.55×0.50m、深さ0.15mをはかる。埋土は自然堆積で2層に大別される。A層は黒褐色土主体、B層は黄褐色土主体。壁は底面からほぼ直に立ち上がり、底面はほぼ平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR2/4、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR5/6、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
B1	10YR5/6、粘土質、粘性強	10YR3/3、粘土質、塊、3%、粘性強	中～硬・中～密	

第30号土坑跡 (第15図)

調査区の中央北側に位置する。小土坑で平面形は円形。規模は0.70×0.65m、深さ0.20mをはかる。埋土は自然堆積で3層に大別される。A層は暗褐色土主体、B層は暗褐色土主体、C層は黒褐色土主体。壁は緩やかに立ち上がり底面はほぼ平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR3/2、粘土質、塊、20%、粘性強	中～硬・中～密	
B1	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR3/3、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中～密	
C1	10YR3/2、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、3%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。

第31号土坑跡 (第15図)

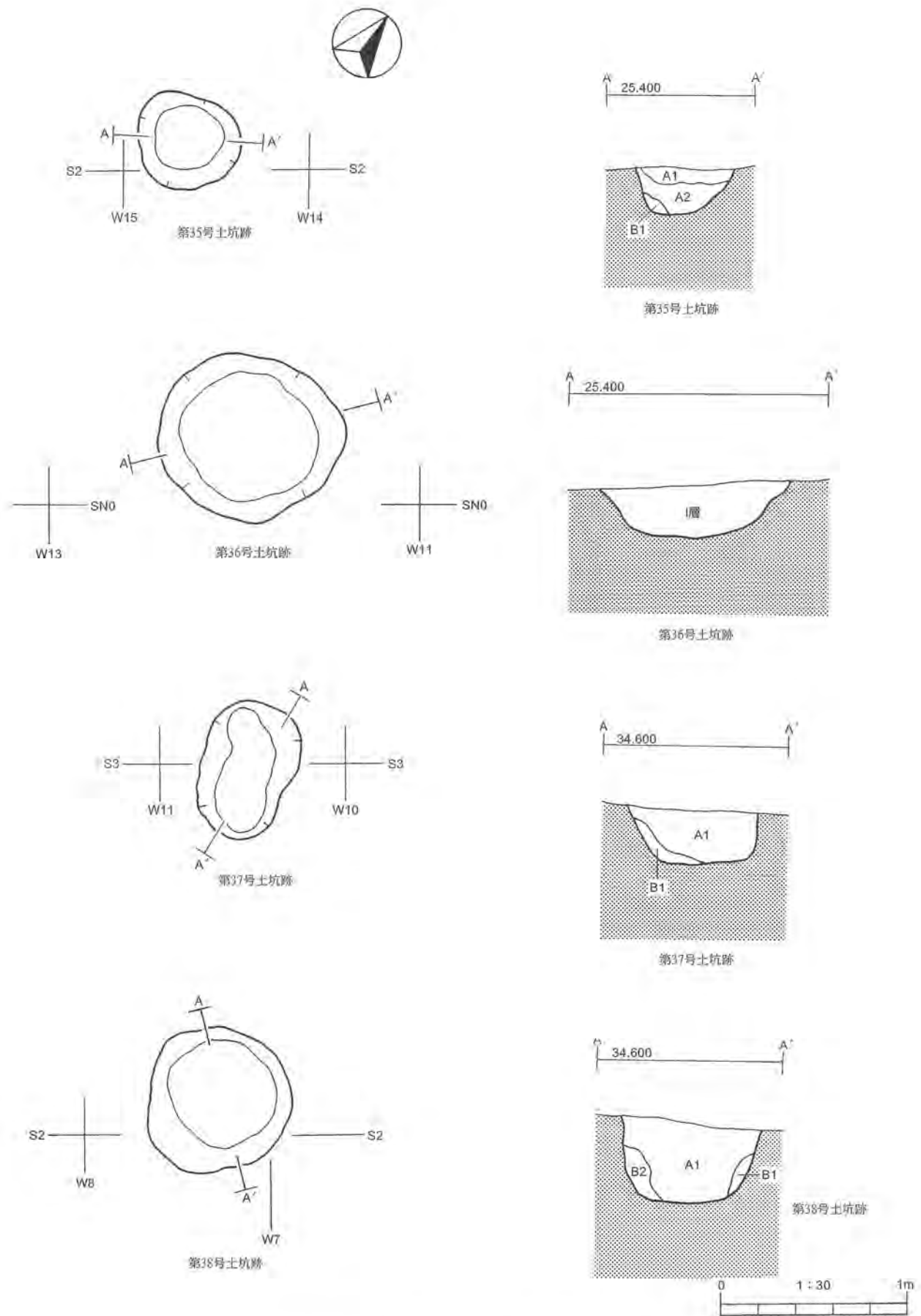
調査区中央北側に位置する。小土坑で平面形はほぼ円形。規模は0.75×0.70m、深さ0.30mをはかる。埋土は自然堆積で3層に大別。A層は暗褐色土主体、B層は黄褐色土主体、C層は黒褐色土主体。壁はほぼ直に立ち上がり底面はほぼ平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR3/2、粘土質、塊、30%、粘性強 10YR3/4、粘土質、塊、10%粘性強	中～硬・中～密	
B1	10YR5/6、粘土質、粘性強	10YR3/3、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中～密	
C1	10YR3/2、粘土質、粘性強	10YR3/3、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR3/4、粘土質、塊、5%粘性強 10YR3/4、粘土質、塊、3%粘性強	中～硬・中～密	

第32号土坑跡 (第15図)

調査区の中央北側に位置する。小土坑で平面形は楕円形。規模は0.65×0.45m、深さ0.10mをはかる。埋土は1層で黒褐色土主体。壁はほぼ直に立ち上がり底面はほぼ平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/2、粘土質、粘性強	10YR5/6、粘土質、塊、25%、粘性強	中～硬・中～密	



第16図 第35号土坑跡～第38号土坑跡

第33号土坑跡と第34号土坑跡 (第15図)

調査区の北西部に位置する。重複し第33号土坑跡の方が新しい。

第33号土坑跡は、平面形は円形。規模は0.80×0.70m、深さ0.20mをはかる。埋土は自然堆積で褐色土主体を主体とする。壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦面である。遺物は出土しなかった。

第34号土坑跡は、平面形はほぼ円形。規模は1.40×1.10m、深さ0.45mをはかる。埋土は人為堆積で2層に大別される。B層は黒褐色土主体、C層は暗褐色土主体で2層に細分される。壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦面である。遺物は埋土から若干出土しているが、いずれも縄文のみの小破片で図示しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR4/4明、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、3%、粘性中	中～硬・中	第33号土坑跡
B1	10YR2/2、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊～粒、3%、粘性中	硬・中～密	第34号土坑跡
C1	10YR3/4、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、粒、10%、粘性中 10YR3/3、粘土質、塊、5%、粘性中	中～硬・中	
C2	10YR4/4暗、粘土質、粘性中	10YR2/3、粘土質、塊、15%、粘性中	中～硬・中	

第35号土坑跡 (第16図)

調査区の北西部に位置する。小土坑で平面形はほぼ円形。規模は0.55×0.50m、深さ0.25mをはかる。埋土は自然堆積で2層に大別される。A層は暗褐色土主体で2層に細分されA2層には褐色から黄褐色土塊を多く混入する。B層は黄褐色土主体。壁はやや外傾し、底面は丸みを有す。遺物は磨製石斧(第27図50)が1点出土している。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性中		硬・中～密	
A2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、20%、粘性強 10YR5/6、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中～密	
B1	10YR5/6、粘土質、粘性強	10YR2/3、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	

第36号土坑跡 (第16図)

調査区の北西部に位置する。平面形はほぼ円形。規模は1.05×0.95m、深さ0.30mをはかる。埋土は自然堆積で暗褐色土を主体とする。壁はやや外傾し、底面はほぼ平坦面である。

遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR2/3、粘土質、塊、20%、粘性強 10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性強	硬・中～密	

第37号土坑跡(第16図)

調査区の中央西側に位置する。平面形はほぼ円形。規模は0.75×0.50m、深さ0.30mをはかる。埋土は自然堆積で2層に大別される。A層は暗褐色土主体で多量の炭化物片を含む。B層は褐色土主体。壁は北側はやや緩やかだがほぼ直、底面はほぼ平坦面である。

遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片多量を含む。
B1	10YR4/6、粘土質、粘性強		中～硬・中～密	

第38号土坑跡(第16図)

調査区の中央西側に位置する。平面形はほぼ円形。規模は0.80×0.80m、深さ0.45mをはかる。埋土は自然堆積で2層に大別される。A層は黒褐色土主体、B層は褐色土主体で2層に細分される。壁は北側はほぼ直、底面はほぼ平坦面である。

遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、5%、粘性強 10YR4/4、粘土質、塊、20%、粘性強	中～硬・中～密	
B1	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR2/3、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	
B2	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性強 10YR2/3、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	

第39号土坑跡(第17図)

調査区の中央北側に位置する。フラスコ形土坑で平面形はほぼ円形。規模は上端で1.00×0.90m、下端で1.00×0.90m、深さ0.45mをはかる。埋土は自然堆積で2層に大別される。A層は黒褐色土を主体とし2層に細分、B層は褐色土主体で底面を覆う。壁は内傾し、底面は平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/2、粘土質、粘性強	10YR3/3、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中～密	
A2	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中～密	
B1	10YR4/6、粘土質、粘性強		中～硬・密	

第42号土坑跡(第17図)

調査区の北西部に位置する。小土坑で平面形は楕円形。規模は0.65×0.50m、深さ0.20mをはかる。埋土は自然堆積で暗褐色土を主体とし2層に細分される。壁は西側がなだらかで東側は直、底面は西側が高くなる。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、3%、粘性強	硬・中～密	
A2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	

第41号土坑跡(第17図)

調査区の北西部に位置する。小土坑で平面形はほぼ円形。規模は0.60×0.60m、深さ0.15mをはかる。埋土は自然堆積で暗褐色土を主体とし2層に細分される。壁はほぼ直、底面は平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、3%、粘性強 10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強	硬・中～密	
A2	10YR3/4、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、5%、粘性強 10YR3/3、粘土質、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	

第43号土坑跡(第17図)

フラスコ形土坑 調査区の北西部に位置する。フラスコ形土坑で平面形はほぼ円形で北～西側に不整な掘り込みを伴う。規模は上端で1.40×1.30m、下端で0.90×0.80m、深さ1.15mをはかる。

埋土は一部人為堆積で4層に大別される。A層は自然堆積で黒褐色土を主体とし2層に細分、B層、C層は人為堆積でB層は褐色土主体、C層は暗褐色土から褐色土を主体とし4層に細分される。D層は暗褐色土を主体とする。壁は内傾気味に立ち上がり上端で開口する。底面は平坦面である。

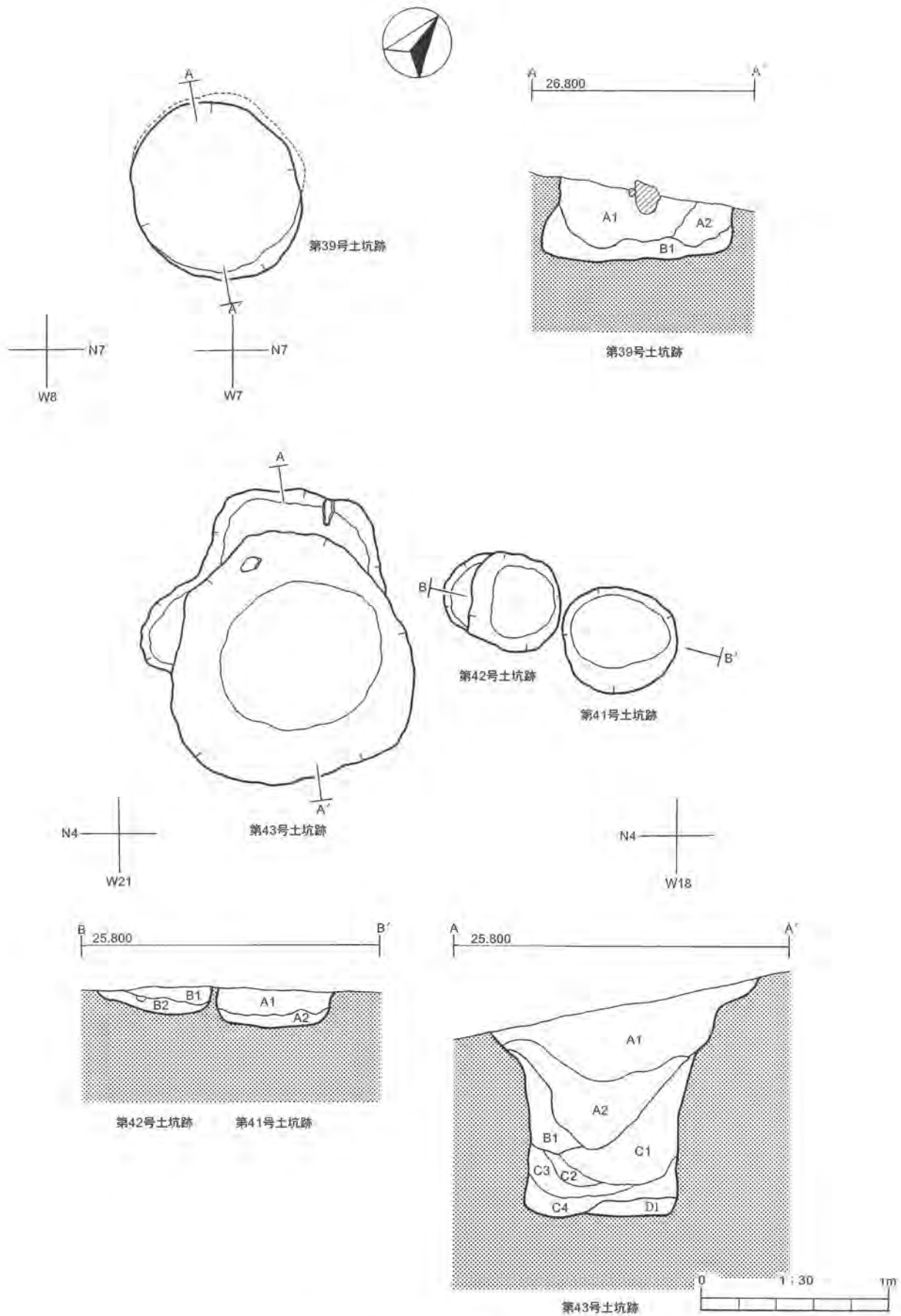
遺物は埋土から若干出土している。第25図32、33で32は無文の口縁部片で内面に段を有す。33は無文部に沈線と刺突で施文するもの。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/2、粘土質、粘性中	10YR2/3、粘土質、塊、20%、粘性中 10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性中	硬・中～密	中れき少量含む。
A2	10YR2/3明、粘土質、粘性強	10YR3/2、粘土質、塊、15%、粘性強	中～軟・中	中れき少量含むがA1層よりは少ない。
B1	10YR4/4、粘土質、粘性強	10YR2/3、粘土質、塊、5%、粘性強	中・中～密	炭化物片微量含む。
C1	10YR2/3暗、粘土質、粘性強	10Y4/6、粘土質、塊、30%、粘性強	中～軟・中	
C2	10YR4/6、粘土質、粘性強		中～軟・中	
C3	7.5YR4/4、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、20%、粘性強 10YR3/4、粘土質、塊、10%、粘性強	中～軟・中	炭化物片微量含む。
C4	10YR4/6、粘土質、粘性強		中～軟・中	
D1	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR4/4、粘土質、塊、20%、粘性強	中～軟・中	れき少量含む。

第44号土坑跡(第18図)

調査区の中央部に位置する。小土坑で平面形はほぼ円形。規模は0.80×0.70m、深さ0.25mをはかる。埋土は自然堆積で黒褐色土を主体とし2層に細分される。壁はやや外傾気味、底面は平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR3/3、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中～密	
A2	10YR3/3、粘土質、粘性強	10YR5/8、粘土質、塊、15%、粘性強	中～硬・中～密	



第17图 第39号·第41号·第42号·第43号土坑跡

第45号土坑跡(第18図)

調査区のほぼ中央部に位置する。小土坑で平面形は楕円形。規模は0.65×0.55m、深さ0.15mをはかる。埋土は自然堆積で暗褐色土を主体とする。壁はほぼ直、底面は南東側に傾斜する。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR5/8、粘土質、塊、5%、粘性強	硬・中～密	炭化物片微量含む。

第46号土坑跡(第18図)

調査区の東南部に位置する。平面形は楕円形。規模は1.45×1.05m、深さ0.15mをはかる。埋土は自然堆積で暗褐色土を主体とする。壁はほぼ直、底面は南東側がやや深くなり段差がつく。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/4、粘土質、粘性中	10YR4/4、粘土質、塊、5%、粘性中 10YR2/3、粘土質、塊、15%粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。

第47号土坑跡(第19図)

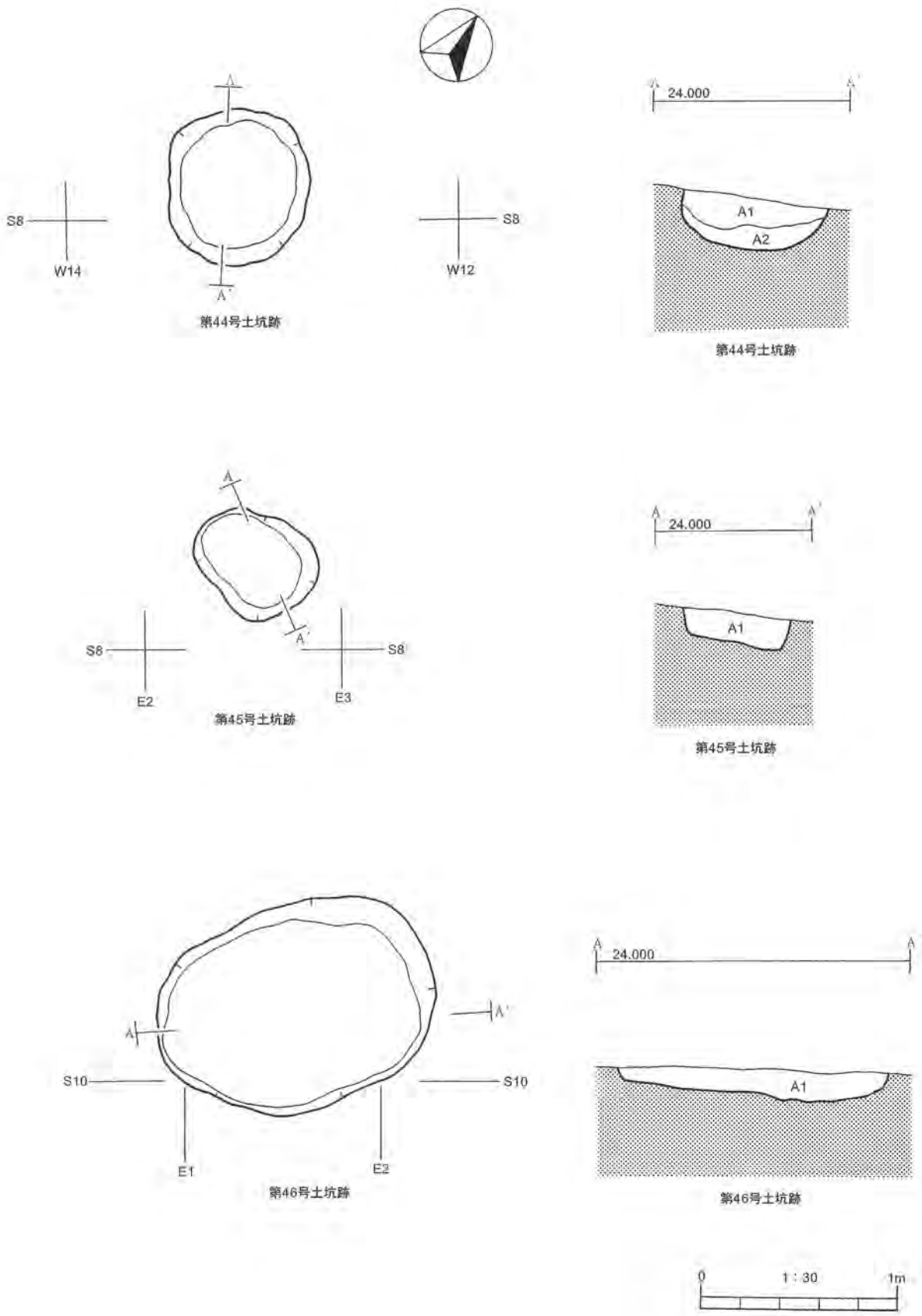
フラスコ形土坑 調査区の西壁側にほぼ半分を検出した。フラスコ形土坑で平面形はほぼ円形。規模は長軸で0.85m、深さ0.30mをはかる。埋土は自然堆積と思われ2層に大別される。A層は暗褐色土を主体とし、B層は褐色土を主体とする。壁は北側はほぼ直で南側は大きく傾斜する。底面も南側に傾斜する。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR2/3、粘土質、塊、20%、粘性中 10YR5/6、粘土質、塊、10%、粘性中	中～硬・中～密	
B1	10YR5/6、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、30%、粘性中 10YR3/3、粘土質、塊、15%、粘性中	中～硬・中～密	

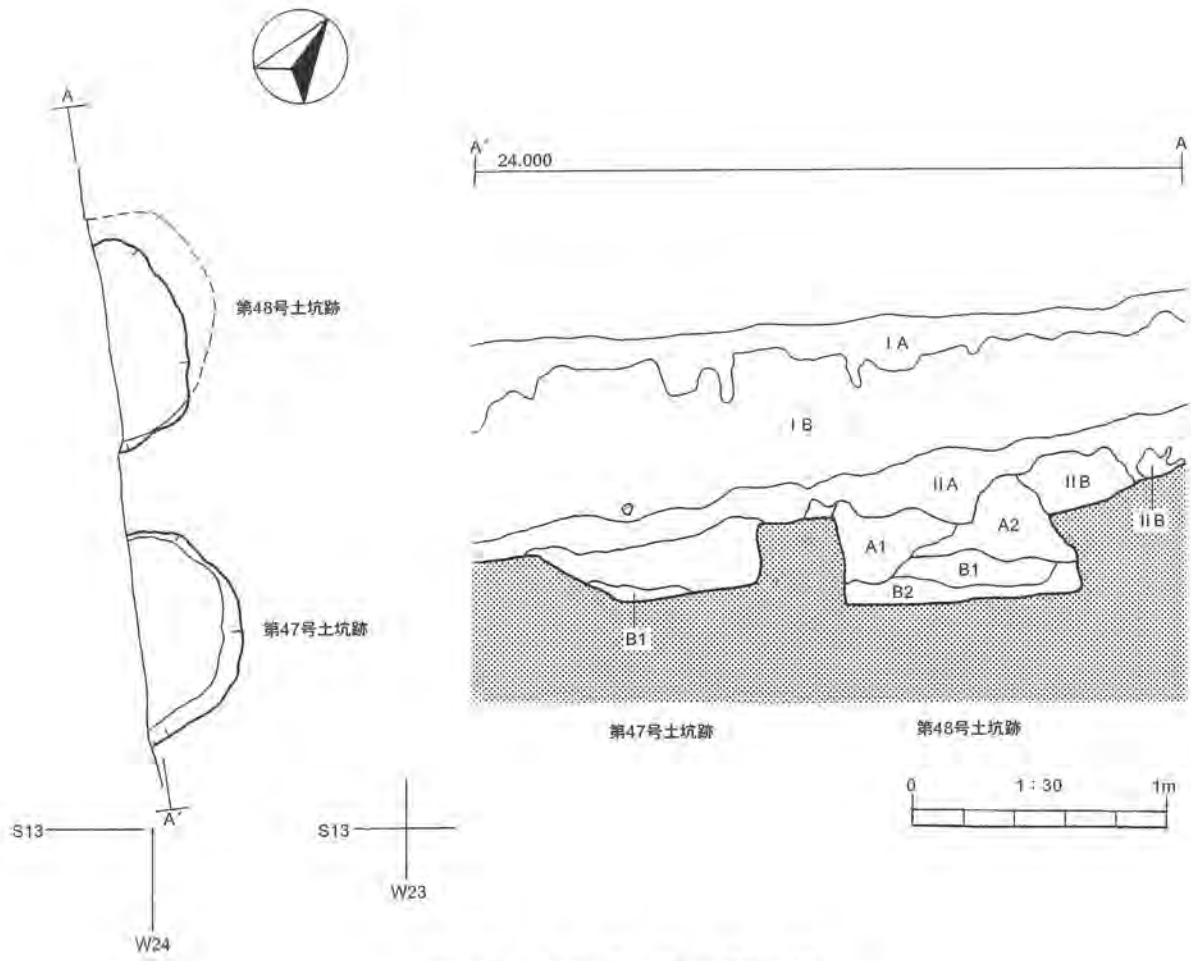
第48号土坑跡(第19図)

フラスコ形土坑 調査区の西壁側にほぼ半分を検出した。基本層序Ⅱb層を掘り込んでいる。フラスコ形土坑で平面形は円形から楕円形と推定される。規模は上端で0.85m、下端で0.95m、深さ0.35mをはかる。埋土は2層に大別される。A層は暗褐色土を主体とし2層に、B層は褐色土を主体とし2層に細分される。壁は東から北側は内傾し南側はほぼ直。底面は平坦面である。遺物は出土しなかった。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR3/4、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性中	中～硬・中～密	
A2	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、30%、粘性中	中～硬・中～密	
B1	7.5YR4/4、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、30%、粘性中	中～軟・中	
B2	10YR3/3、粘土質、粘性中	10YR5/6、粘土質、塊、3%、粘性中	中～硬・中～密	



第18图 第44号土坑跡~第46号土坑跡



第19图 第47号·第48号土坑跡

B. 弥生時代の遺構・遺物

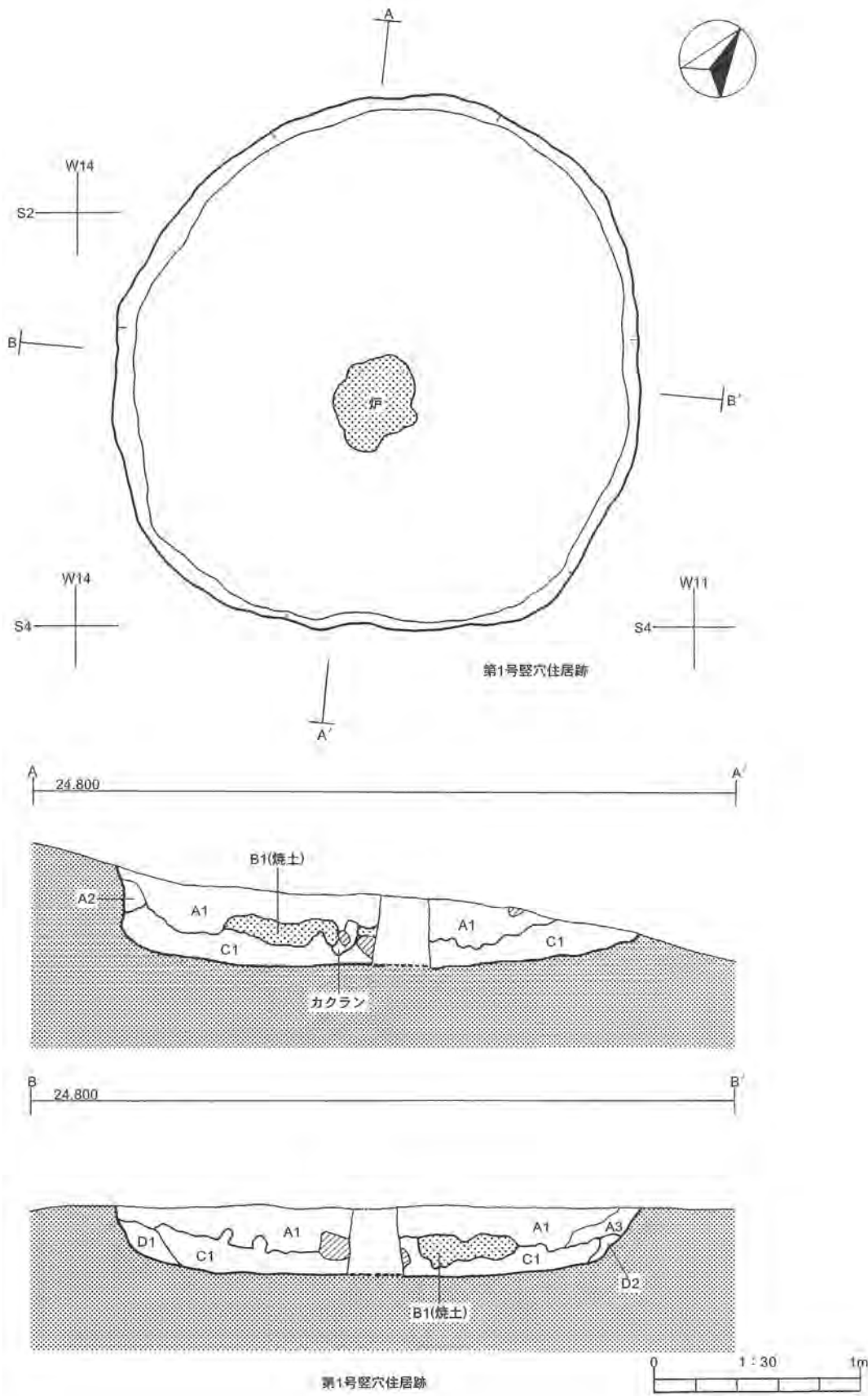
第1号竪穴住居跡(第20図)

調査区の西側に位置する。平面形はほぼ円形。規模は2.60×2.50m、深さ0.40mをはかる小規模な竪穴住居跡である。埋土は自然堆積で4層に大別され埋土中部に焼土が投げ込まれている。A層は黒褐色土を主体とし3層に細分される。B層は投げ込まれた焼土ブロックで暗褐色土を主体としている。C層は床面を覆い黒褐色土を主体としている。D層は壁際に堆積し黒褐色土、褐色土を主体としている。壁はほぼ直に立ち上がり、床面は平坦面で柱穴跡は確認できなかった。

炉跡は床面のほぼ中心部にあり地床炉で、0.50×0.40mの範囲で焼けている。

遺物は埋土中から少量出土している。第25図27～31で27は口縁部片で沈線間に刺突を施文する。28は羽状縄文、29、30は底部片、31は細かい縄文を施文する。弥生時代後期赤穴式に伴うものと思われる。

層位	基本土	混入土	硬さ・しまり	混入物
A1	10YR2/2、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、20%、粘性中 10YR2/3、粘土質、塊、10%、粘性中	中～硬・中～密	れき含む。
A2	10YR2/3、粘土質、粘性中	10YR4/6、粘土質、塊、15%、粘性中	中～硬・中～密	
A3	10YR2/3、粘土質、粘性中	10YR2/2、粘土質、塊、20%、粘性中	中～硬・中～密	炭化物片大量含む。
B1	10YR2/3、粘土質、粘性強	10YR2/2、粘土質、塊、20%、粘性強 10YR4/6、粘土質、塊、3%、粘性強 7.5YR5/6、焼土、塊、5%、粘性強	中～硬・中～密	
C1	10YR3/2、粘土質、粘性強	10YR4/6、粘土質、塊、25%、粘性強 10YR2/2、粘土質、塊、10%、粘性強	中～硬・中～密	炭化物片微量含む。
D1	10YR2/3、粘土質、粘性中	10YR2/2、粘土質、塊、15%、粘性中 10YR4/6、粘土質、塊、10%、粘性中	中～硬・中～密	
D2	10YR4/6、粘土質、粘性強	10YR2/3、粘土質、塊、20%、粘性強	中～硬・中～密	



第20図 第1号竪穴住居跡

C. 所属時期不明の遺構

焼土遺構 No. 1 (第21図)

調査区の東南部に位置する。ほぼ円形で0.80×0.70m、深さ0.15mの範囲で焼けている。遺物は出土していない。

焼土遺構 No. 2 (第21図)

調査区の北西部に位置する。ほぼ円形で0.80×0.70m、深さ0.20mの範囲で焼けている。遺物は出土していない。

焼土遺構 No. 3 (第22図)

調査区の北西部に位置する。不整な楕円形で1.10×0.90m、深さ0.10mの範囲で焼けている。遺物は出土していない。

焼土遺構 No. 4 (第22図)

調査区の中央南側に位置する。攪乱の下で検出したもので不整な楕円形で1.20×0.75m、深さ0.30mの範囲で焼けている。遺物は出土していない。

焼土遺構 No. 5 (第23図)

調査区の中央最南側位置する。不整形で0.70×0.50m、深さ0.15mの範囲で焼けている。遺物は出土していない。

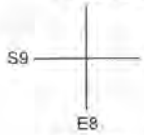
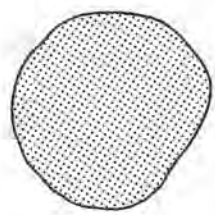
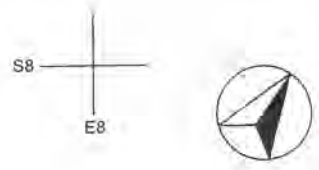
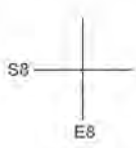
焼土遺構 No. 6 (第23図)

調査区の中央右側、第1号竪穴住居跡東に位置する。不整形で1.20×0.95m、深さ0.20mの範囲で焼けている。遺物は出土していない。

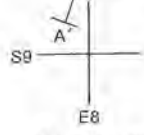
D. 遺構外出土遺物 (第25図・26図)

遺構外からはⅡ層、表土から土器・石器が出土している。第24図34～38はⅡ層出土で、34は無文の口縁部で頸部に段を有し口縁上端に刺突と内面に沈線が施文されている。35～38は縄文主体で36、38は胎土に繊維を含む。39～45は表土出土で40、41は口縁部上端が無文、42はキャリパー形状に口縁部が内湾する。これらは中期中葉に伴うもの。44、45は胎土に繊維を含むもので前期初頭から前半のものか。

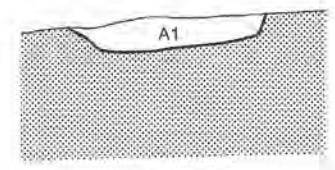
石器は第26図48、49、第27図51～54で基本層序Ⅱ層及び表土から出土している。48は石鏃で基部が抉入する三角形鏃。49は縦形石匙で一方の側縁部が大きく湾曲する。51は敲打磨石の破損品。52は敲石で使用により大きく剥離している。53は打製石斧。54は石刀の破損品と思われるものである。



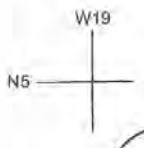
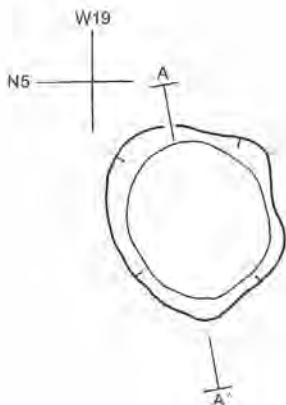
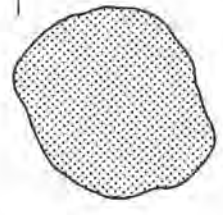
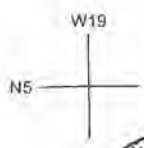
焼土遺構1 (検出)



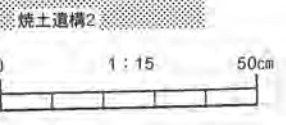
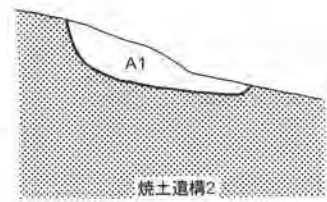
焼土遺構1 (掘り上がり)



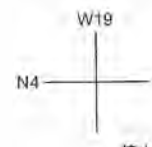
焼土遺構1



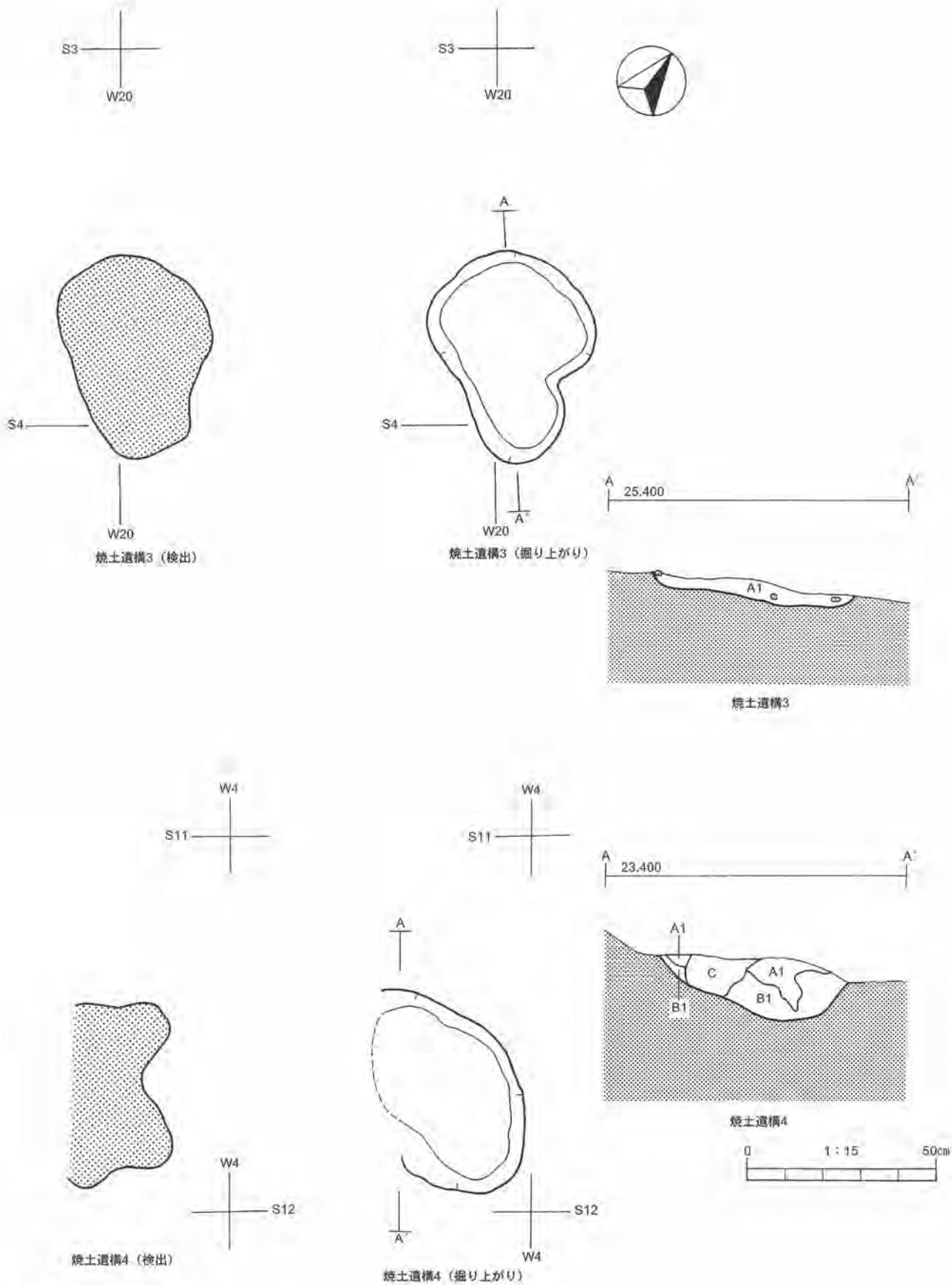
焼土遺構2 (掘り上がり)



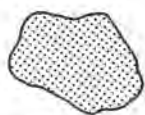
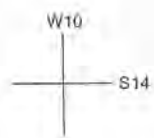
焼土遺構2 (検出)



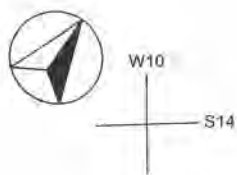
第21図 焼土遺構1・焼土遺構2



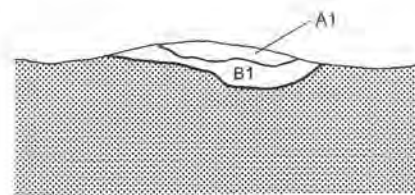
第22図 焼土遺構3・焼土遺構4



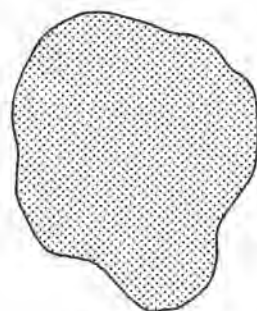
焼土遺構5 (検出)



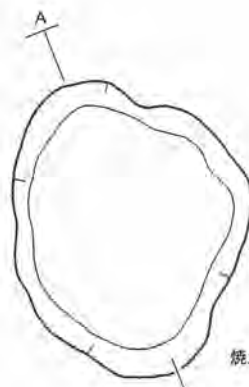
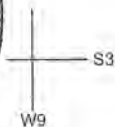
焼土遺構5 (掘り上がり)



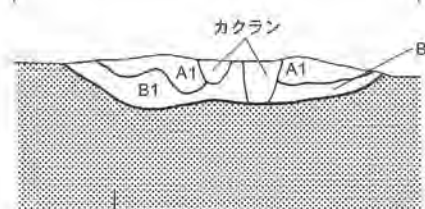
焼土遺構5



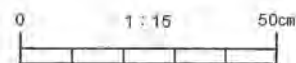
焼土遺構6 (検出)



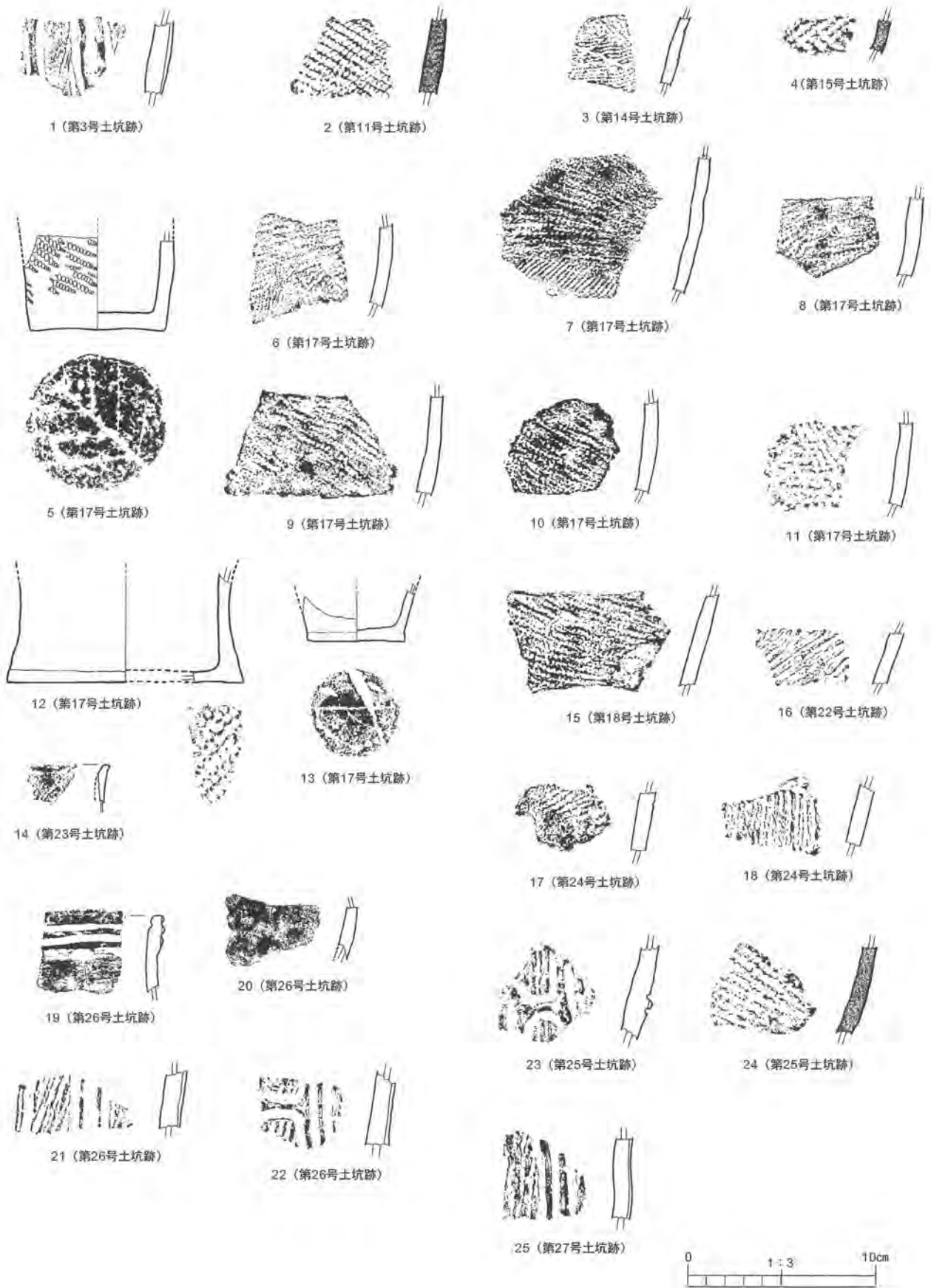
焼土遺構6 (掘り上がり)



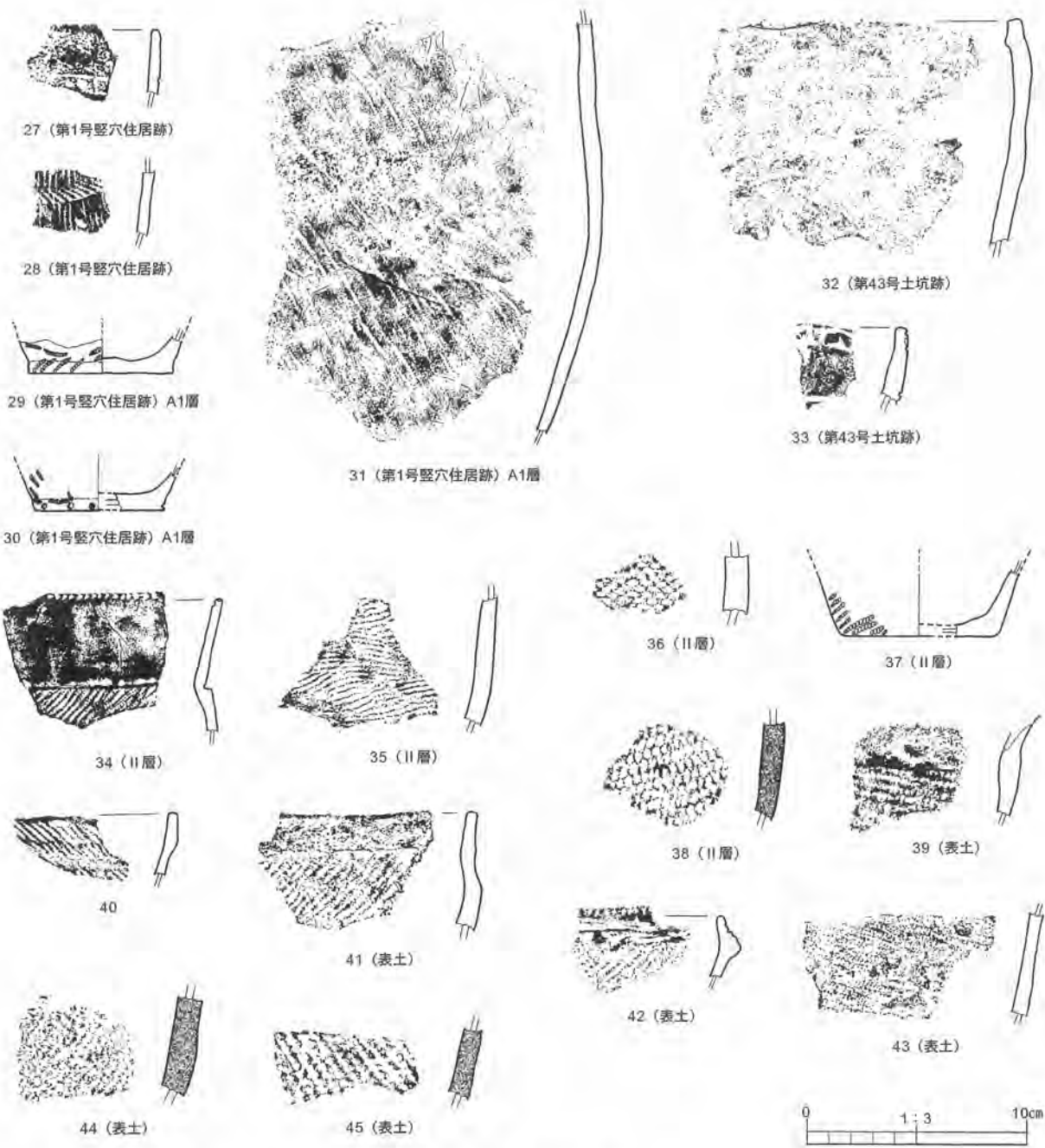
焼土遺構6



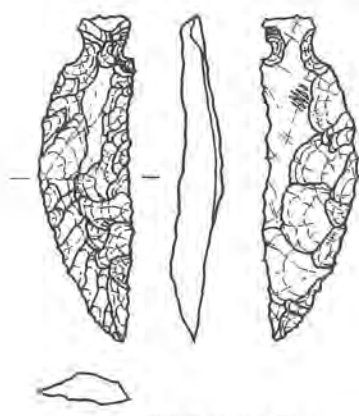
第23図 焼土遺構5・焼土遺構6



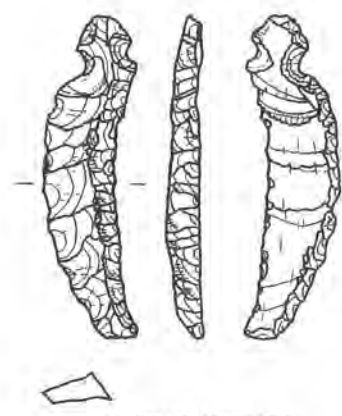
第24图 出土土器①



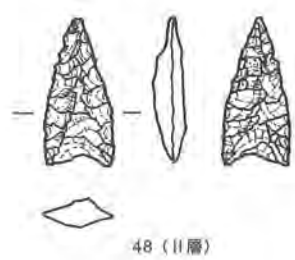
第25図 出土土器②



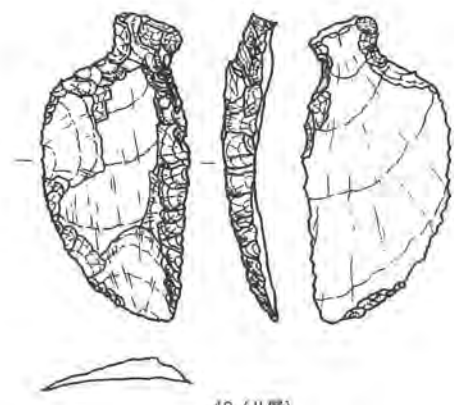
46 (第19号土坑跡A1層)



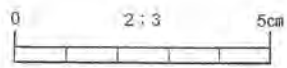
47 (第19号土坑跡A1層)



48 (II層)

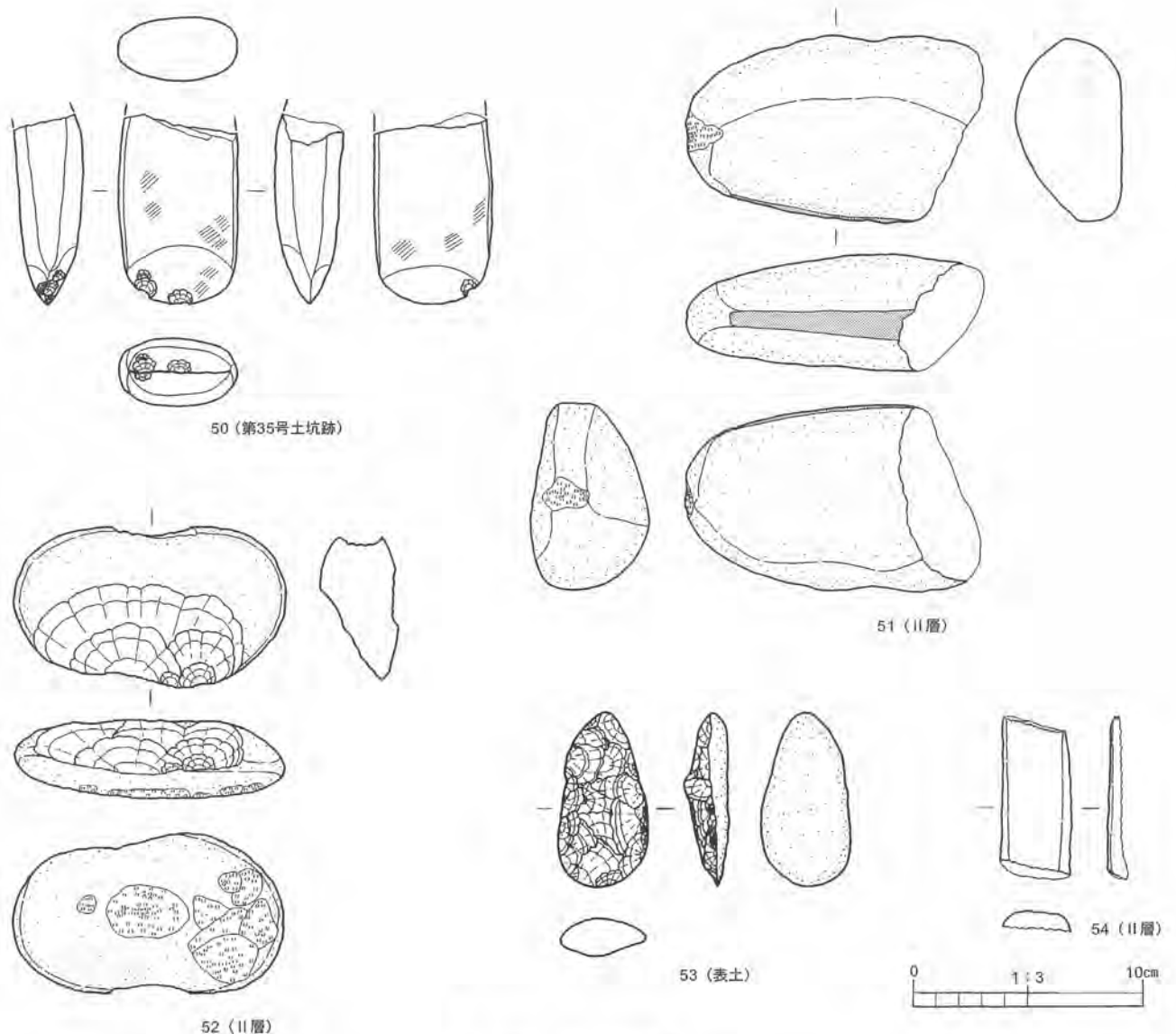


49 (II層)



第26図 出土石器①

掲載図版	出土遺構名	出土層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	写真図版	備考
第26図46	第19号土坑跡	A1層	石匙	6.4	1.8	0.7	9.0	写真図版20-46	縦形
第26図47	第19号土坑跡	A1層	石匙	6.3	1.4	0.5	6.1	写真図版20-47	縦形
第26図48	遺構外	基本層序層	石鏃	3.0	1.3	0.5	1.9	写真図版20-48	基部凹基
第26図49	遺構外	基本層序層	石匙	6.1	2.8	0.6	13.5	写真図版20-49	縦形



第27図 出土石器②

掲載図版	出土遺構名	出土層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	写真図版	備考
第27図50	第35号土坑跡	埋土	磨製石斧	(7.7)	5.2	2.8	(191)	写真図版20-50	
第27図51	遺構外	基本層序層	敲打磨石	12.9	8.0	5.0	642.5	写真図版20-51	
第27図52	遺構外	基本層序層	敲石	11.9	6.9	3.3	309.7	写真図版20-52	
第27図53	遺構外	表土	打製石斧	7.7	3.9	2.0	56.6	写真図版20-53	
第27図54	遺構外	表土	石刀?	(6.6)	3.0	(0.9)	(25.6)	写真図版20-54	

IV 調査のまとめ

1. 縄文時代の遺構・遺物

遺構としては土坑跡42基検出したが、その内14基はフラスコ形土坑であった。フラスコ形土坑は貯蔵穴として定説化しているが、今回の調査ではそれを裏付けるような遺物は確認されなかった。

フラスコ形土坑

14基のフラスコ形土坑は共伴した遺物から前期初頭と中期中葉の2時期に分類されるが、形状的には大きな差異が認められずほぼ同一な形状となっている。また、フラスコ形土坑同士の重複もみられず面積に対する遺構の密度が低いことも指摘できる。

前期初頭と中期中葉

第1次調査結果と関連して考えてみると、第1次調査では前期後半から中期初頭の竪穴住居跡と1基のフラスコ形土坑等が調査されているが、今回の調査では竪穴住居跡が確認されず遺跡全体として概観した場合、その生活空間の中での居住域とか貯蔵穴域とかいう位置づけの違いを反映したものととも考えられるが、広い遺跡のほんの一握りの調査結果から判断するには早計の感もある。今後の調査の進展によって解明していく問と思われる。

遺物は少量だが、土器・石器類が出土している。土器では第1次調査では出土していない胎土に繊維を含む前期初頭の土器が出土しており、遺跡の上限が遡ることが確認された。

遺物

2. 弥生時代の遺構・遺物

小規模な竪穴住居跡1棟だけであったが、遺跡としては弥生時代の遺構・遺物が今回の調査区の周辺部にまだまだ存在する可能性を示すものとして注目される。

竪穴住居跡

宮古市内では、弥生時代の遺構・遺物、特に竪穴住居跡等の遺構の確認されている遺跡は少ない。上村貝塚や狐崎遺跡、大付遺跡で検出しているだけでいずれも弥生時代前期に伴うものである。

今回の第1号竪穴住居跡は小規模で大付遺跡（『大付 96』）のものと形状的には類似しているが、炉跡が石囲炉でなく地床炉である点が異なる。更に、時期的にも共伴土器から後期のものと思われ市内では初見例となる。また、後期の土器にしても今までは断片的にしかみつかっていなかったが、今回は竪穴住居跡に伴うものとして出土している。時期的には小田野氏のⅤ期、赤穴式に相当するものとみられる。いずれにせよ宮古市内の弥生時代は遺構・遺物も資料的には少なく、今後の資料の増加を待ち再度考察していきたい。

土器

参考文献

小田野哲憲：1987「岩手の弥生時代土器編年試論」『岩手県立博物館研究報告』第5号

報告書抄録

ふりがな	けばらいちいせき							
書名	花原市遺跡							
副書名	平成8年度発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	49							
編著者名	鎌田祐二							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒027 岩手県宮古市新川町2番1号							
発行年月日	西暦 1997年5月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経		調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	調査期間	m	調査原因
けばらいち 花原市	いわてけん 岩手県 みやこし 宮古市 おおざげばら 大字花原 いちだいいちち 市第1地 わりあざはたけの 割字畑ノ 下	03202	LG32-1082	39° 36' 58"	141° 52' 38"	19960408 ~19960605	2,585	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
けばらいち 花原市	集落	縄文	フラスコ形土坑14基 土坑跡28基		縄文前期、中期 の土器・石器			
		弥生	竪穴住居跡1棟		弥生時代後期の 土器			
		不明	焼土遺構6					

写 真 图 版

第1図版



遺跡遠景（南から）



調査区の状況

第2図版

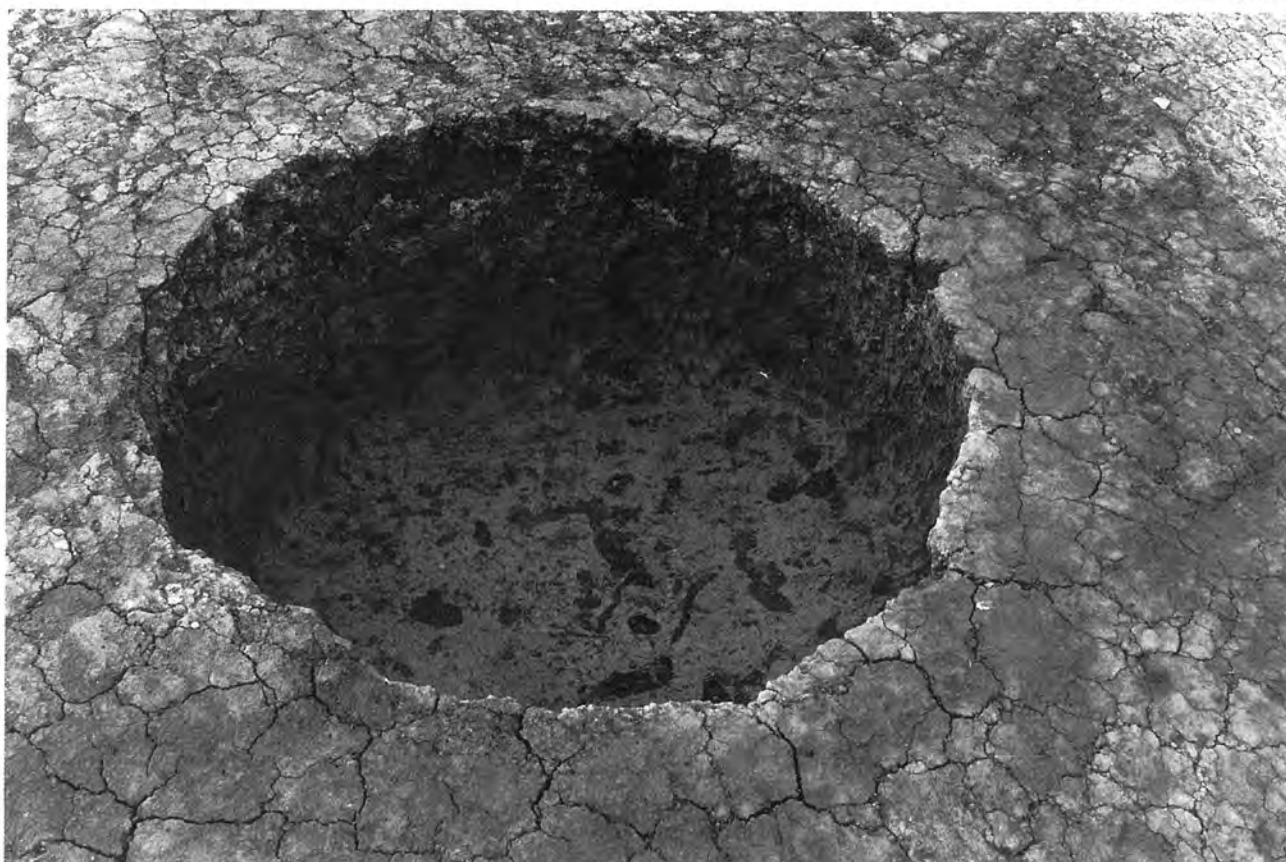


第3号土坑跡（完掘）



第3号土坑跡（断面）

第3図版



第5号土坑跡（完掘）

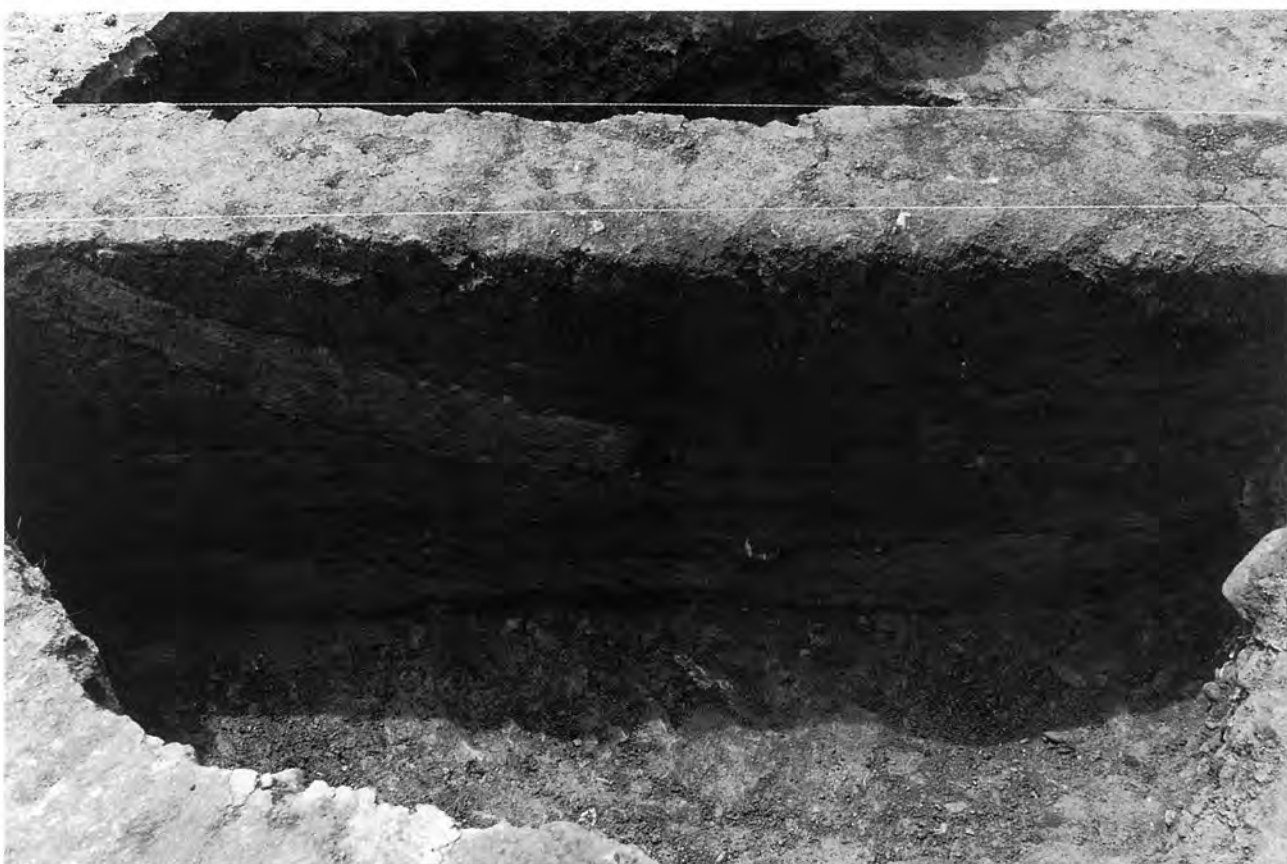


第5号土坑跡（断面）

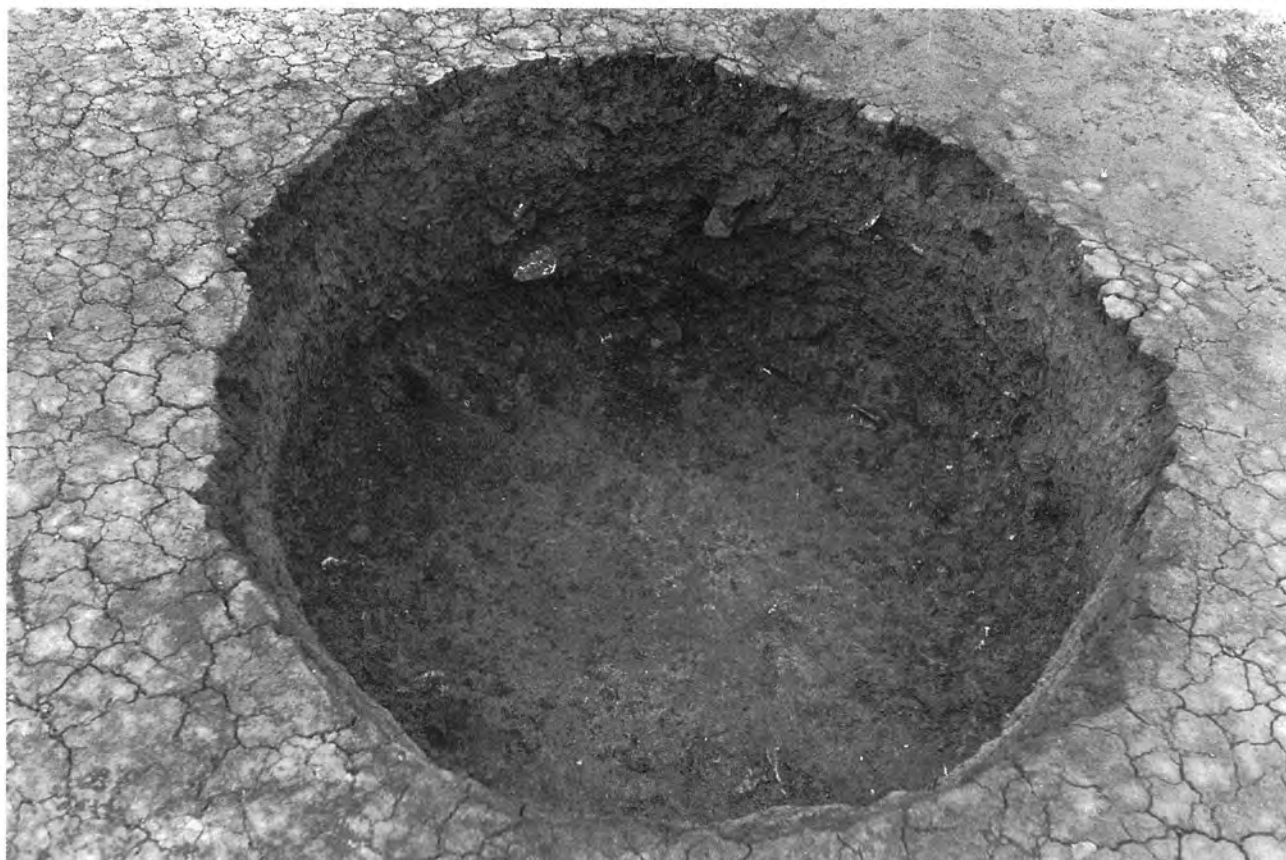
第4図版



第10号土坑跡（完掘）



第10号土坑跡（断面）



第11号土坑跡（完掘）



第11号土坑跡（断面）

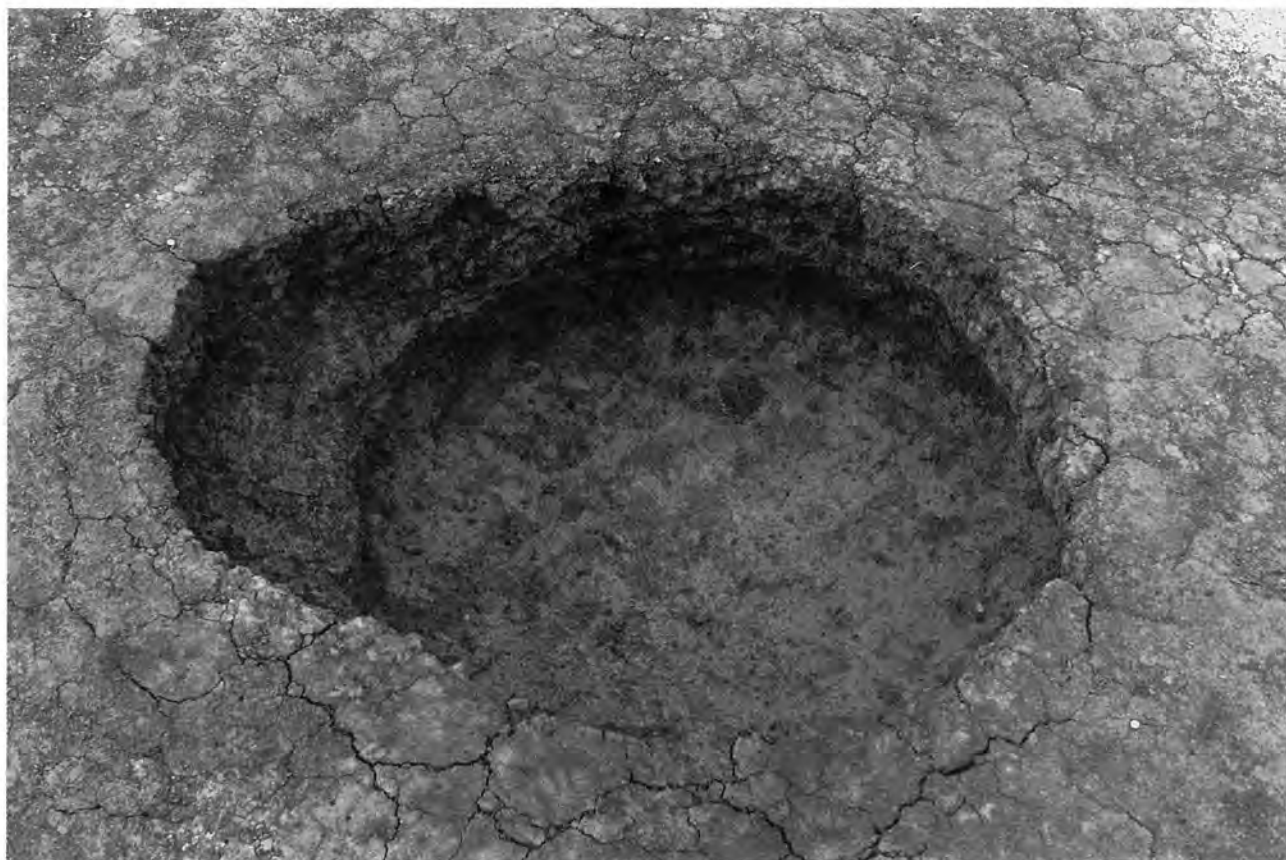
第6图版



第12号土坑跡（完掘）



第12号土坑跡（断面）



第13号土坑跡（完掘）



第13号土坑跡（断面）

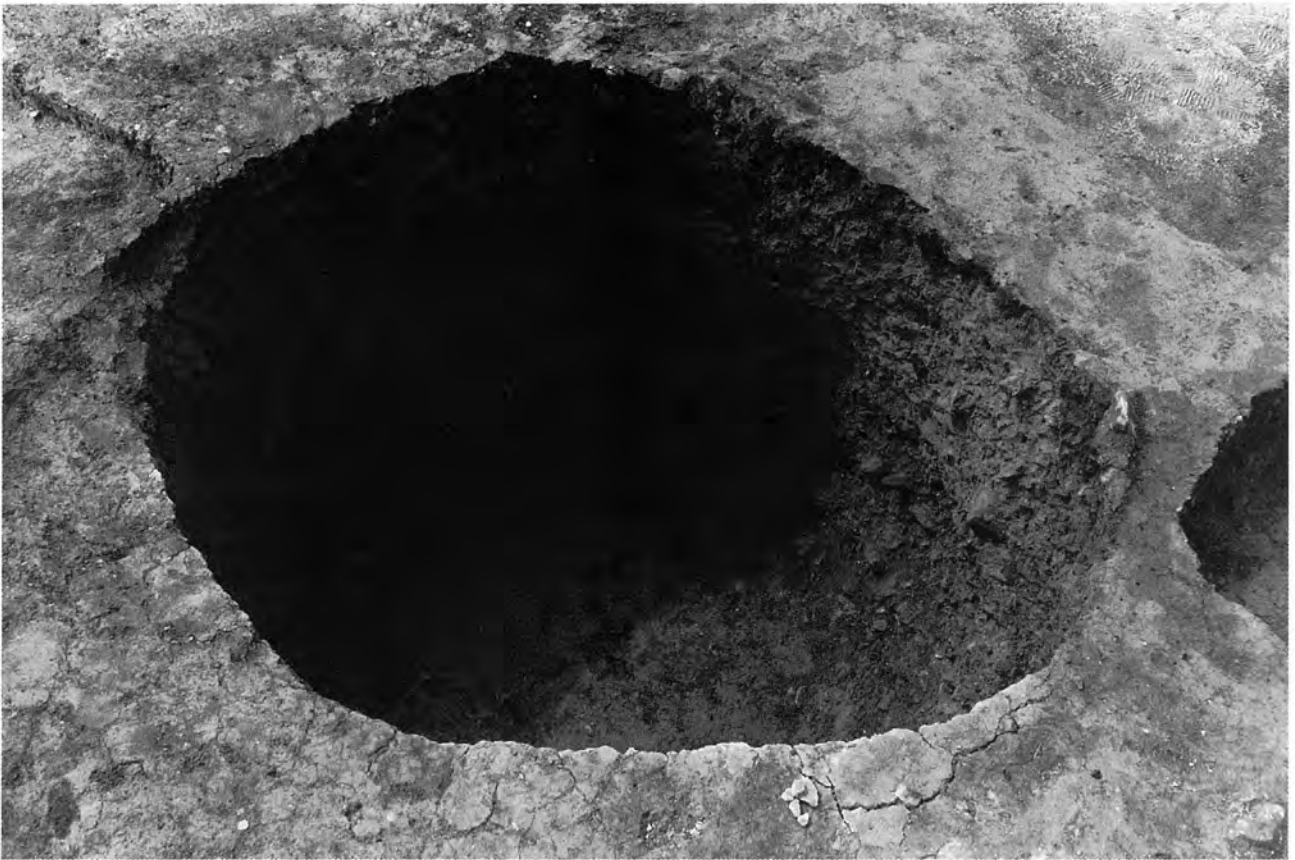
第8图版



第15号土坑跡（完掘）



第15号土坑跡（断面）



第17号土坑跡（完掘）



第17号土坑跡（断面）

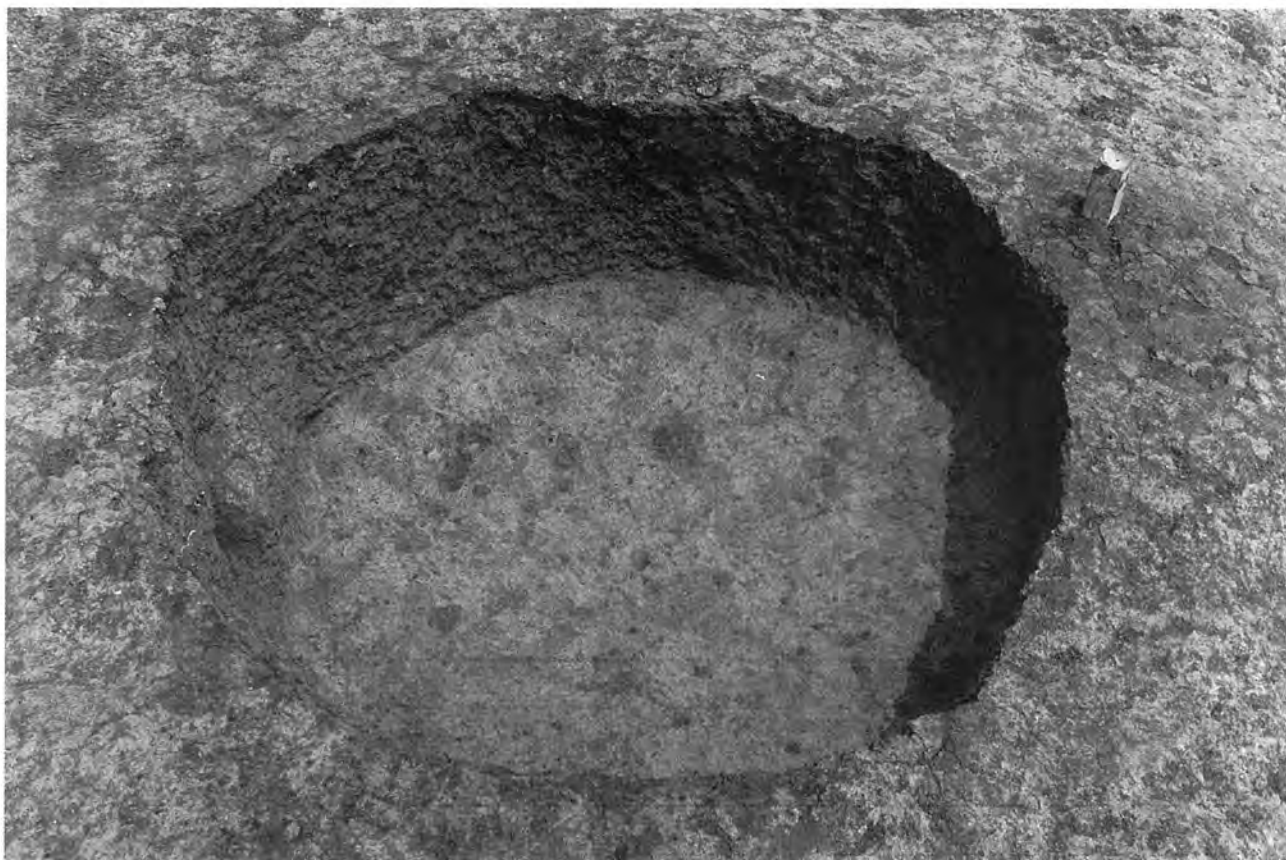
第10図版



第17号土坑跡遺物出土状況



第21号土坑跡（完掘）



第28号土坑迹（完掘）



第39号土坑迹（完掘）

第12图版



第39号土坑跡（断面）



第43号土坑跡（完掘）

第13图版



第43号土坑跡（断面）



第47号土坑跡・第48号土坑跡

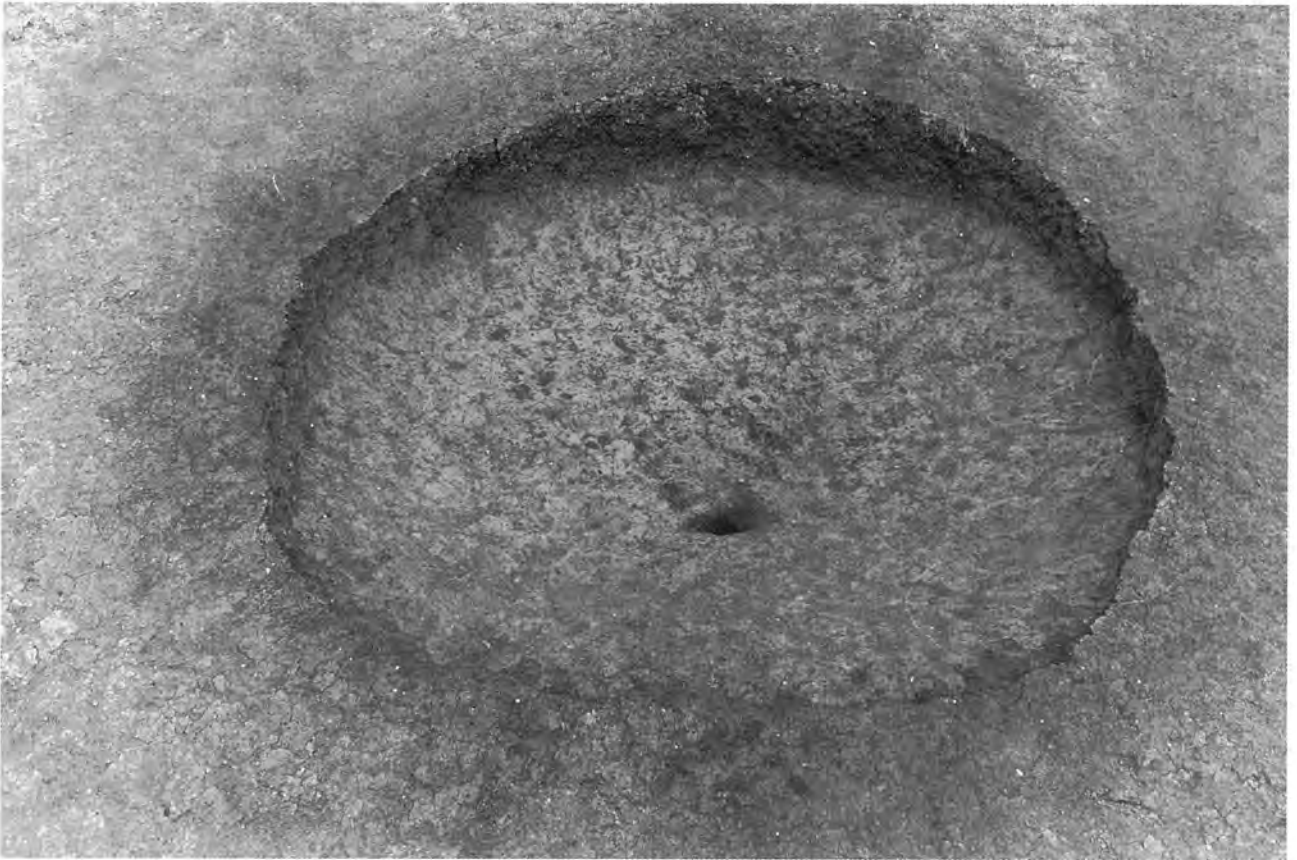
第14图版



第47号土坑跡（断面）



第48号土坑跡（断面）



第1号竖穴住居跡（完掘）

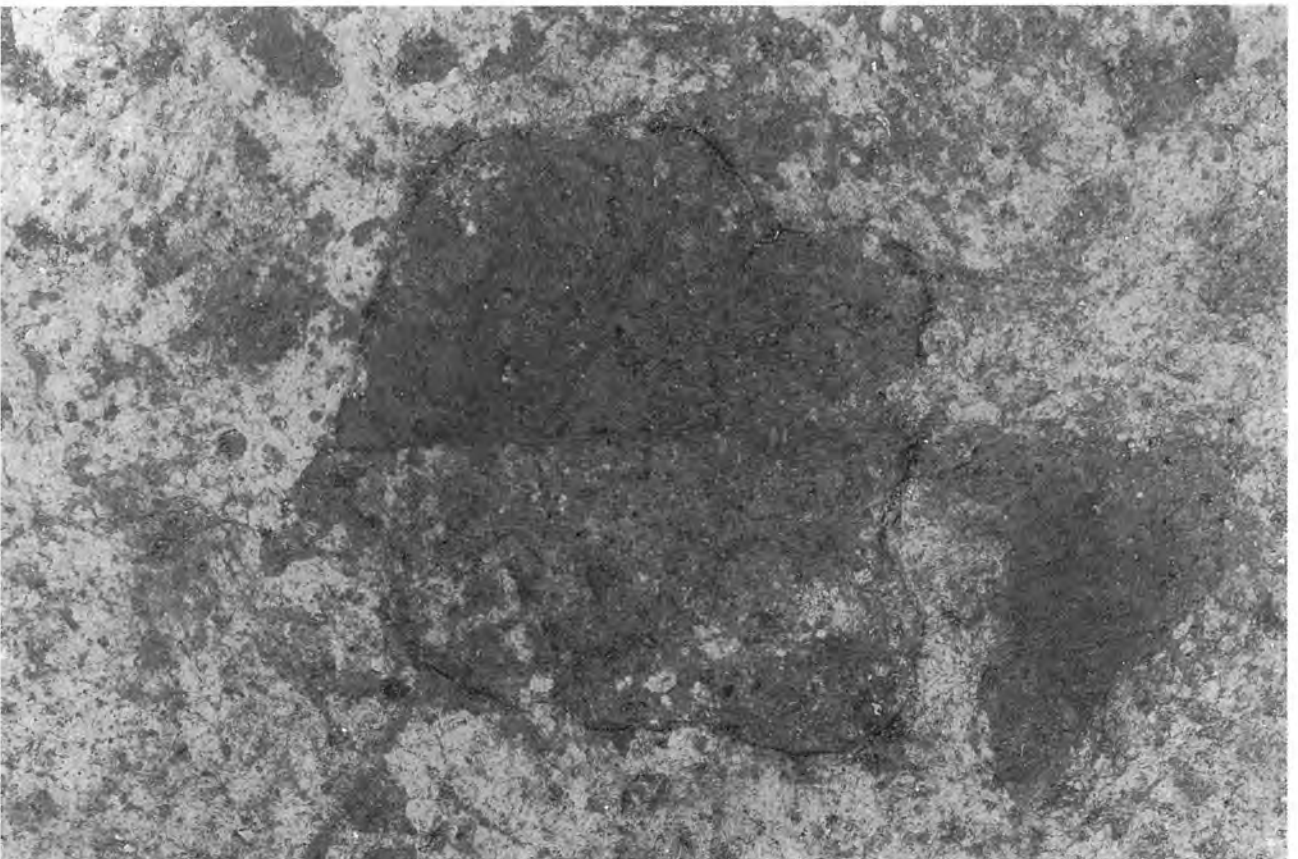


第1号竖穴住居跡（断面）

第16图版



第1号竖穴住居跡（断面）



第1号竖穴住居跡（炉跡）

第17图版



第24图1



第24图2



第24图3



第24图4



第24图6



第24图11



第24图7



第24图9



第24图10



第24图8



第24图14



第24图15



第24图16



第24图17



第24图18



第24图19



第24图20



第24图23



第24图24



第24图21



第24图22



第24图25



第25图27



第25图28



第24图33

出土土器

第18図版



第24図6

第24図12

第24図13



第25図37



第25図29

第25図30

出土土器

第19図版



第25図31



第25図32



第25図34



第25図35



第25図36



第25図38



第25図39



第25図40



第25図41



第25図42



第25図43



第25図44



第25図45

出土土器

第20图版



第26图46



第26图47



第26图48



第26图49



第27图50



第27图51



第27图52



第27图53



第27图54

出土石器

宮古市埋蔵文化財調査報告書49

花 原 市 遺 跡

—平成8年度発掘調査報告書—

1 9 9 7 . 6

発 行 岩手県宮古市教育委員会
〒027 岩手県宮古市新川町2番1号
TEL 0193 (62) 2 1 1 1

印 刷 花坂印刷工業株式会社
〒027 岩手県宮古市新川町1番2号
TEL 0193 (62) 3125(代)

